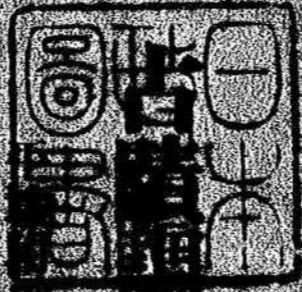
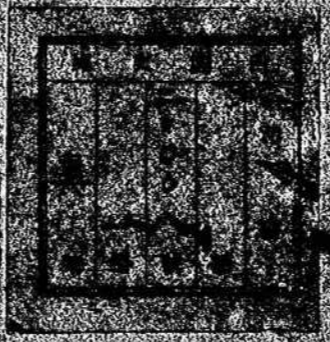


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



音楽特別報告

近代に於ける樂浪時代の音楽

朝野

2

庫 文 閣 内			
西		二 〇 〇	和 書
架	冊	號	類

古蹟調査特別報告

平壤附近に於ける樂浪時代の墳墓

一

第一冊

朝鮮總督府

古蹟調査特別報告第一冊正誤

目次	頁	誤	正
目次四ノ一四行	同	同	同
目次四ノ一五行	同	同	同
目次四ノ一六行	同	同	同
目次四ノ一七行	同	同	同
目次四ノ一八行	同	同	同
目次四ノ一九行	同	同	同
目次四ノ二〇行	同	同	同
目次四ノ二一行	同	同	同
目次四ノ二二行	同	同	同
目次四ノ二三行	同	同	同
目次四ノ二四行	同	同	同
目次四ノ二五行	同	同	同
目次四ノ二六行	同	同	同
目次四ノ二七行	同	同	同
目次四ノ二八行	同	同	同
目次四ノ二九行	同	同	同
目次四ノ三〇行	同	同	同
目次四ノ三一行	同	同	同
目次四ノ三二行	同	同	同
目次四ノ三三行	同	同	同
目次四ノ三四行	同	同	同
目次四ノ三五行	同	同	同
目次四ノ三六行	同	同	同
目次四ノ三七行	同	同	同
目次四ノ三八行	同	同	同
目次四ノ三九行	同	同	同
目次四ノ四〇行	同	同	同
目次四ノ四一行	同	同	同
目次四ノ四二行	同	同	同
目次四ノ四三行	同	同	同
目次四ノ四四行	同	同	同
目次四ノ四五行	同	同	同
目次四ノ四六行	同	同	同
目次四ノ四七行	同	同	同
目次四ノ四八行	同	同	同
目次四ノ四九行	同	同	同
目次四ノ五〇行	同	同	同
目次四ノ五一	同	同	同
目次四ノ五二	同	同	同
目次四ノ五三	同	同	同
目次四ノ五四	同	同	同
目次四ノ五五	同	同	同
目次四ノ五六	同	同	同
目次四ノ五七	同	同	同
目次四ノ五八	同	同	同
目次四ノ五九	同	同	同
目次四ノ六〇	同	同	同
目次四ノ六一	同	同	同
目次四ノ六二	同	同	同
目次四ノ六三	同	同	同
目次四ノ六四	同	同	同
目次四ノ六五	同	同	同
目次四ノ六六	同	同	同
目次四ノ六七	同	同	同
目次四ノ六八	同	同	同
目次四ノ六九	同	同	同
目次四ノ七〇	同	同	同
目次四ノ七一	同	同	同
目次四ノ七二	同	同	同
目次四ノ七三	同	同	同
目次四ノ七四	同	同	同
目次四ノ七五	同	同	同
目次四ノ七六	同	同	同
目次四ノ七七	同	同	同
目次四ノ七八	同	同	同
目次四ノ七九	同	同	同
目次四ノ八〇	同	同	同
目次四ノ八一	同	同	同
目次四ノ八二	同	同	同
目次四ノ八三	同	同	同
目次四ノ八四	同	同	同
目次四ノ八五	同	同	同
目次四ノ八六	同	同	同
目次四ノ八七	同	同	同
目次四ノ八八	同	同	同
目次四ノ八九	同	同	同
目次四ノ九〇	同	同	同
目次四ノ九一	同	同	同
目次四ノ九二	同	同	同
目次四ノ九三	同	同	同
目次四ノ九四	同	同	同
目次四ノ九五	同	同	同
目次四ノ九六	同	同	同
目次四ノ九七	同	同	同
目次四ノ九八	同	同	同
目次四ノ九九	同	同	同
目次四ノ一〇〇	同	同	同

附

同

五九一六八六一頁(五六)ヨリ六八頁(六三)マテヲ
五八頁(五三)ノ次ニ繰上ケ、五九頁(五
四)及六〇頁(五五)ヲ末尾ニ繰下ケ各圖
版番號及頁附ヲ順ニ改ム

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

292.2.1.
185

292
292.2.1.
185

凡 例

- 一 本報告ハ大正五年度ニ於ケル古蹟調査ノ特別報告ニシテ平壤附近ニ存スル樂浪ノ遺蹟ニ關スルモノナリ
- 二 古墳出土品其ノ他ノ蒐集物ニ付テハ更ニ第二篇ヲ刊行シ以テ完結ヲ告クル豫定ナリ
- 三 挿入ノ寫眞ハ既刊ノ報告書ニ收ムルモノ多シト雖記述及圖面トノ對照上必要ナルヲ以テ之ヲ重出セリ

大正八年三月

朝鮮總督府

目次

一 緒言.....三

二 木椁のみを有する墳墓.....七
 (一) 龍岡郡海雲面葛城里甲墳.....七
 (二) 大同郡大同江面第三墳.....八

三 木椁の底部及び四圍に玉石を詰めし墳墓.....九
 (三) 大同郡大同江面第九墳.....九

四 木椁外部を塼にて包みし墳墓.....一〇
 (四) 大同郡大同江面第六墳.....一〇
 (五) 大同郡大同江面第二墳.....一一

五 塼椁にして木製の天井を有せし墳墓.....一二
 (六) 大同郡大同江面第八墳.....一二

六 塼椁にして穹窿天井を有する墳墓.....一三
 (七) 大同郡大同江面第七墳.....一三
 (八) 大同郡大同江面第十墳.....一三
 (九) 大同郡大同江面第四墳.....一三
 (一〇) 大同郡大同江面第一墳.....一四

七 塼の残缺を以て椁を造れる墳墓.....一四
 (一一) 大同郡大同江面第五墳.....一四

八 結語.....一五

目次

和ニ〇〇〇八第

插圖目次

(一) 平安南道龍岡郡海雲面葛城里城隍洞 於乙洞古城實測圖.....一七

(二) 同城附近遺蹟圖.....一七

(三) 同城東壁.....一八

(四) 平安南道龍岡郡海雲面龍井里 粘蟬碑.....一九

(五) 平安南道龍岡郡海雲面葛城里 甲墳實測圖.....二〇

(六) 同墳.....二二

(七) 同墳副葬品出土狀況.....二三

(八) 同墳城內.....二三

(九) 平安南道大同郡大同江面 第一墳附近古墳群全景 同上配置略圖.....二三

(一〇) 第三墳實測圖.....二四

(一一) 同墳.....二五

(一二) 同墳副葬品發掘狀況.....二五

(一三) 同墳內部實測圖.....二六

(一四) 平安南道大同郡大同江面 第九墳實測圖.....二六

(一五) 同墳.....二八

(一六) 同墳城內北部.....二八

(一七) 同墳內部實測圖.....二九

(一八) 同墳遺物配置圖.....三〇

(一九) 同墳副葬品出土狀況其一.....三一

(二〇) 同墳副葬品出土狀況其二.....三一

(二一) 同墳副葬品出土狀況其三.....三二

(二二) 同墳副葬品出土狀況其四.....三三

(二三) 同墳副葬品出土狀況其五.....三三

(二四) 同墳副葬品出土狀況其六.....三四

(二五) 平安南道大同郡大同江面 第六墳實測圖.....三五

(二六) 同墳.....三六

(二七) 同墳博天井陷沒狀況(北方ヨリ望ム).....三六

(二八) 同墳博天井陷沒狀況(南方ヨリ望ム).....三七

(二九) 同墳實測圖 博天井復興伏圖 木棺及殘存木部平面圖.....三八

(三〇) 同墳內部實測圖.....三九

(三一) 同墳內部.....四〇

(三二) 平安南道大同郡大同江面 第二墳實測圖.....四一

(三三) 同墳內部實測圖.....四二

(三四) 同墳內部.....四三

(三五) 平安南道大同郡大同江面 第八墳實測圖.....四四

(三六) 同墳.....四五

(三七) 同墳前室東壁.....四五

(三八) 同墳內部實測圖.....四六

(三九) 同墳玄室.....四七

(四〇) 同墳內部復興圖.....四八

(四一) 平安南道大同郡大同江面 第七墳實測圖.....四九

(四二) 同墳內部實測圖.....五〇

(四三) 同墳.....五一

(四四) 同墳.....五一

(一三) 同墳副葬品出土狀況其四.....三三

(一四) 同墳副葬品出土狀況其五.....三三

(一五) 同墳副葬品出土狀況其六.....三四

(一六) 平安南道大同郡大同江面 第六墳實測圖.....三五

(一七) 同墳.....三六

(一八) 同墳博天井陷沒狀況(北方ヨリ望ム).....三六

(一九) 同墳博天井陷沒狀況(南方ヨリ望ム).....三七

(二〇) 同墳實測圖 博天井復興伏圖 木棺及殘存木部平面圖.....三八

(二一) 同墳內部實測圖.....三九

(二二) 同墳內部.....四〇

(二三) 平安南道大同郡大同江面 第二墳實測圖.....四一

(三四) 同墳內部實測圖.....四二

(三五) 同墳內部.....四三

(三六) 平安南道大同郡大同江面 第八墳實測圖.....四四

(三七) 同墳.....四五

(三八) 同墳前室東壁.....四五

(三九) 同墳內部實測圖.....四六

(四〇) 同墳玄室.....四七

(四一) 同墳內部復興圖.....四八

(四二) 平安南道大同郡大同江面 第七墳實測圖.....四九

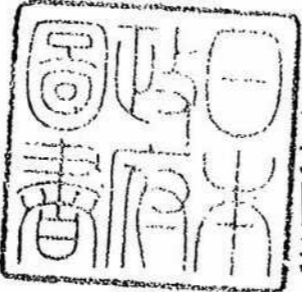
(四三) 同墳內部實測圖.....五〇

(四四) 同墳.....五一

插圖目次

(四五)	同墳羨道外部	五三
(四六)	同墳南壁羨道閉塞状況	五三
(四七)	平安南道大同郡大同江面 第十墳實測圖	五三
(四八)	同墳	五三
(四九)	同墳玄室北壁一部	五四
(五〇)	同墳玄室	五五
(五一)	平安南道大同郡大同江面 第四墳實測圖	五六
(五二)	同墳内部實測圖	五七
(五三)	同墳玄室	五八
(五四)	平安南道大同郡大同江面 第五墳内部實測圖	五九
(五五)	同墳内部	六〇
(五六)	平安南道大同郡大同江面 第一墳實測圖	六一
(五七)	同墳	六一
(五八)	同墳内部實測圖	六三
(五九)	同墳内部實測圖	六四
(六〇)	同墳埴上(前方ヨリ望ム)	六五
(六一)	同墳埴上(後方ヨリ望ム)	六六
(六二)	同墳側室入口	六七
(六三)	同墳側室天井	六八

平壤附近に於ける樂浪時代の墳墓 一



朝鮮總督府古蹟調査委員 工學博士 關野貞

朝鮮總督府古蹟調査委員 囑託 谷井濟一

朝鮮總督府囑託 栗山俊一

朝鮮總督府囑託 小場恒吉

朝鮮總督府囑託 小川敬吉

朝鮮總督府囑託 野守健

小職等大正五年度に於いて調査せし古蹟に關しては既に「平安南道大同郡順川郡及龍岡郡古蹟調査報告」として提出したり。今、平壤附近に於ける樂浪時代墳墓の實測圖成を告げしを以て之を提出するに際し勉めて曩に報告せし所と重複を避け且古墳の番號順に據らず整理分類して本篇を草す。若夫れ副葬品に至つては別に精細なる報告を提出せん事を期す。

一 緒 言

大正五年秋九月十月の候、平安南道大同郡大同江面に於いて、十基の古墳を調査した。第一墳より第六墳までは貞柏里に屬し、第七墳より第十墳までは石巖里に屬せり。

(調査せし古墳は卷末附圖に其地點を示して番號を附したり。)同年十一月平安南道龍岡郡海雲面葛城里に於いて一基の古墳を調査したり。何れも樂浪時代に屬するものなり。

平壤の對岸、大同江の南岸一帯の地には無數の古墳或は群在し或は點在せり。是等の所在地と數とを表記せば左の如し。

大同郡大同江面助玉里	四二基
同 面石巖里	二七六基
同 面貞柏里	二五九基
同 面將進里	五一基
同 面土城里	四基
同 面梧野里	五基
大同郡龍淵面坡長里	六三基
同 面道濟里	五七基
同 面加鶴里	九基
同 面巢里	一三基
	計一四二基

大同郡南串面南井里	一七七基
同 面甫城里	一二基
同 面長梅里	八六基
同 面柳寺里	七六基
	計三五一基

即、三箇面十四箇里に互り總計一千百三十基(大正六年五月上旬、小場小川兩囑託の臨地計算に據る)の古墳あり。

是等の古墳地帯の調査を開始せしは、明治四十二年秋十月にして、當時小職等は平壤在住官民有志の好意殊に小城齊今泉茂松兩技師及び故白川正治氏の協力に依りて古墳二基の内部を調査せし時に在り。爾來、東京帝國大學文科大學教授文學博士萩野由之氏及び文學士今西龍氏は、同年冬、一基の古墳を調査し、小職等は更に翌明治四十三年秋舊韓國宮内府の委囑に依り、再び今泉技師の協力を得て更に二基の古墳の調査を遂行し、是等古墳の内部の構造及び副葬品より判斷して樂浪時代に於ける漢種族の墳墓たる事を推定するに到れり。

是等の夥しき樂浪時代と推定すべき古墳の存する以上は樂浪郡治の遺址も必ず附近に存せん事は小職等が從來調査の經驗上堅く信ぜし所にして、特に、陸地測量部發行朝鮮五萬分一略圖平壤七號松院圖幅には大同江の左岸平壤の對岸に土城等の地名存するを

以て豫て其地方の踏査を行ふ見込なりしかば小職等の一人は、大正二年秋九月二十三日、小職等の一行たりし本府史料調査囑託今西龍氏を促して、共に渡舟を僦ひて土城里に出で豫期の如く土城址を發見し、樂浪時代に屬すべき瓦片の散亂せるを認めしかば鮮童に賞を懸けて即時に瓦當の完全なるもの及び其破片を集むる事百個に垂んせり。爾來此土城址は世人の注目する所となり、「大晋元康」「千秋萬歲」などある漢時代より西晋時代のものなるべしと思はるゝ瓦當、前漢時代の者も考へらるゝ銅鏃、鼻鈕篆字の銅印、半兩の錢幣、五銖錢、青銅製及び玻璃製の裝飾品などの發見せらるゝあるに到れり。

此土城址は、平安南道大同郡大同江面土城里にあり、其西南東の三方に各稍離れて樂浪時代の墳墓千百數十基現存し、城址の地域、方約四五町に及び、最初樂浪郡の一縣治の存せし所にして後帶方郡治の在りし所と推定せらるべき黃海道鳳山郡文井面石城里城内洞なる唐土城よりは一層大に、樂浪郡粘蟬縣治址と認めらるべき平安南道龍岡郡海雲面葛城里城峴洞なる於乙洞古城よりは約九倍の地域を占め、且同一形式なるより觀ても此土城址は恐らくは樂浪郡中の最重要なる縣即朝鮮縣の遺址にして、又實に樂浪郡治の遺址と斷定して不可なかるべく、而して後魏の鄴道元が高句麗文咨明王と同時代に當つて撰せし水經註に「余蕃使に訪すに、言ふ、『城_{樂浪}は涓水_{此時代は}の陽に在り。其水西に流る。』」と

て、故の樂浪朝鮮縣を逕る。即、樂浪郡治なり、漢武帝置く。而して西北に流る。』」と記せる高句麗使者の言は、當時に於いて、樂浪郡治遺址に就いて知る所最多かりし高句麗郡人士の言なれば以て憑據と爲すべく、其言ふ所は此遺址の地形に牴觸せざるのみならず、高句麗の都城の下流大同江の流水の方向轉換せる所に存せるを説けるなどより考へ合して此土城址の地形と吻合する者あるを覺ゆるなり。故に此土城址の樂浪郡朝鮮縣治、即、樂浪郡治の遺址なる事は、之を遺蹟遺物の實際より觀てのみならず、之を古書の正確なる記載より察して到底疑ふの餘地無きなり。

從來先輩の樂浪郡治を論ぜらるゝ者之を大同江右岸今日の平壤の地に擬定せられざる者殆無き有様なりき。近時記録及び遺蹟の研究上より之を遼安の西北、大同江の東南に擬せられし人あり。其遺蹟の研究即大同江南に漢魏西晋時代の墳墓多きを前提として得られし結論は正しきも、其記録より得られし結論は漢代の涓水も亦大同江なりとの前提より到達せられし者にして、粘蟬碑が平安南道龍岡郡に發見せられて漢代の列水が大同江にして、涓水の鴨綠江なるべき事が疑を容れざる今日に於いては誤れる前提より到達せる結論は亦誤りにして其當る事あらんも其は偶然の暗合に過ぎざるなり。之を要するに從來の記録の記述の方法は、多くは、古朝鮮王險城、樂浪郡朝鮮縣即樂浪郡治及び高

勾麗平壤城の三者を、甚しきものに至つては高勾麗長安城の四者を、恰、江戸と東京とが全く重れるが如くに其地點重なり居りしものこの誤解を研究者に懐かしむるに至りしも、是等は恐らくは其地域何れも樂浪郡朝鮮縣治下の地域内には存せしならんも治所の所在地とは必ずしも重なりて存せし者にはあらずなり。記録中、水經註載する所の高勾麗使節の樂浪郡治遺址に就いて言ふ所は正しくして且精しき者なり。

約言せば小職等は平安南道大同郡大同江面土城里なる土城址は、

一、其附近遺蹟の状態より推して、斯かる地點に郡治遺址存すべき筈なりと考へられ居りし地點より發見せられ、

二、樂浪時代に屬すべき墳墓によりて適當の距離を保つて包圍せられ居り、

三、他の漢種族の遺せし土城址と同一形式を有して更に規模雄大に、

四、其附近の地理に精通せる筈なる高勾麗使者の最信すべき言に何等抵觸する所無く

五、反つて使者の言ふ所は其土城址の地形に吻合す。

の五點より考察して、樂浪郡朝鮮縣治、即、樂浪郡治の遺址なりと斷定するものなり。

大正二年秋、東京帝國大學文科大学教授文學博士白鳥庫吉氏は平安南道龍岡郡海雲面龍井里に於いて古碑を拓せられしも文字不明讀み得ずとして暫時打捨て居られしが、博

士とは數日を開て、當時小職等の一行にして本府史料調査囑託たりし今西龍氏亦該碑を拓し來り、小職等は、其中に粘蟬の文字あるを發見し、遂に龍岡郡地方は樂浪郡粘蟬縣の故地にして従つて粘蟬に至つて海に注ぐ列水の大同江なる事をも明かにし、漢代に於ける此地方に關する歴史地理の研究上多少の寄與を爲したり。

小職等、明治四十四年秋、平安南道龍岡郡海雲面葛城里なる於乙洞古城と傳ふる土城址を踏査して城内より樂浪時代に屬すべき平瓦を獲、此土城址が樂浪郡の一縣治の遺址なるべき事を發見せしが、後其附近に粘蟬碑の發見せらるゝに及んで此土城址が恐らくは粘蟬縣治の址迹なるべきを確めたり。此土城址の西々北約七町に二基の土墳あり、大正五年十一月其一基を調査して甲墳と命名せり。

今、平安南道大同郡大同江面に於ける第一墳より第十墳に至る十基の古墳及び龍岡郡海雲面葛城里に於ける甲墳一基に就いて之を其内部主として椁の構造上より分類して六種と爲し記述すべし。

二 木椁のみを有する墳墓

(一) 龍岡郡海雲面葛城里甲墳

龍岡郡海雲面葛城里城采洞なる甲墳は、今封土低下せるも方墳にして其現状は實測圖に現はしたるが如し。堅壙を穿ち木椁を造り内に木棺及び副葬品を安置せし者の如く、調査の際僅に其形迹を認むるを得たり。壙は南北に長く東西に短く、其北部よりは六箇の素焼陶製埴、北部西に偏してよりは斧劍矛刀子、南部よりは轡及び鐵製金具を發見し、棺内腰部の邊に於いて水晶の粗製切子玉及び青銅金具を獲たり。是等陶器の手法は於乙洞古城内より發見せらるゝ陶器の破片と同一。

三國志魏書に沃沮の俗を記して「其葬るゝ大木槨を作る、長さ十餘丈あり、一頭を開いて戸を作る。新たに死せる者は、皆假に之を埋め、才シカに形を覆はしめ、皮肉盡きて乃ち骨を取つて槨中に置く。家を舉げて皆一槨を共にす。木を刻して生形の如くにし、死に隨はしむる者數を爲す。又瓦甕有つて、米を其中に置き、之を槨戸の邊に編懸す。」と見えたり。此古墳は、石椁又は埴椁を造らずして木椁を作れるは、稍沃沮の墳墓に似たる點あり、木椁を造つて葬るは北鮮西鮮に通有なる風習なりしならん。其副葬品貧弱なるも墳の稍大なるより觀れば樂浪郡粘蟬縣に於ける有力なる土酋なんごの墳墓ならんか。

(二)大同郡大同江面第三墳

大同郡大同江面貞柏里に在り、民家の西北丘陵上に存する七基の古墳中の一なり。地山

を豎に穿つ事七八尺、長方形の木椁を作り、底部に大き七八寸角の栗材を竝べて床となし周圍に柱を立て上に梁を渡し四面及び天井を板にて張れるが如し、而して内部に水の浸透するを防がんが爲に底邊四壁天井の外部を粘土にて包み其上を土を以て封せし者なり。

椁内よりは鐵劍一口銅鏡二面陶器諸種の漆器等を、棺内よりは銀釧等を發見せり。

三 木椁の底部及び四圍に玉石を詰めし墳墓

(三)大同郡大同江面第九墳

大同郡大同江面石巖里部落の南方に在り。元山と稱せらるゝ丘陵の上に堅壙を穿ち且中央部を稍低く掘り下げ、底部には徑六七寸位の玉石を敷き其東側及び西側には縦に各一本宛の角材を置き之に柱を立て梁を架し床及び四壁天井には板を張り以て木椁を構造し、更に四圍の地山と木椁との間には玉石を詰め木椁と玉石との間隙には木炭を以て填塞し、其上に土を封せしものなり。

椁内東南に偏して一箇の木棺を安置せし形迹あり、漆塗の者なりしが如きも今全部朽ちて多少土色を變ぜるに過ぎず。又人骨の痕迹たも認むる能はず。此古墳は實に夥しき副葬品を藏せり。即、木棺内よりは、面部及び肛門の位置より九孔を塞ぐに用ひしと考

へらるゝ玉製品、胸部より壁、左右の手の位置より指輪、左側より劔及び玉製の豚、右側より刀子及び「永壽康寧」と陰刻せる玉印、帯の位置より純金製鉸具等を出し、棺外、木椁内北部よりは陶製の埴・甕の類を出し、青銅製の博山爐・鍍・奩・携奩・鼎・洗・壺及び金銅壺亦北部に殆一直線に相並んで配せられ、西部には矛・戟・斧各一口・弩機及び弩機所川の箭・馬具等を置きたり。其他、金銅の熊形脚を有する案あり、金銅の覆輪を有する多くの漆器あり、銅鏡二面あり、劔あり、大刀あり、刀子あり、殆枚擧に違あらず。是等の副葬品は他の古墳發見のものと共に別に詳述する事とすべし。要するに第九墳は其遺物の豊富なる點に於いて群を抜けり。此古墳は其遺物より判じて恐らくは後漢時代に屬すべきものにして、後漢末は特に厚葬の風あり、此墳墓に多數の貴重なる副葬品を藏せしを見れば蓋樂浪時代に於ける身分高き者の墳墓なるが如し。

四 木槨外部を埴にて包みし墳墓

(四)大同郡大同江面第六墳

大同郡大同江面貞柏里に在り、第一第二第三墳の存する丘陵と畑地を隔て、南方約四五町の丘陵上に存す。地山に堅壙を穿つ事約一間半内外、木椁は略方形の平面を有し、

其構造は既に述べたる第三墳に同じきも、底部は下に埴を平に二枚通り敷き詰め、四圍は埴を立て、一通り木椁の外を張り、更に天井上にも埴を一通り置き、其外を一旦粘土にて包みて後、土を覆ひ埴形をなせし者なり。此墳は、木部腐朽、上部を覆へる埴も天井と共に陥没し居りしも其埴の配列整然として存し、當初の構造を観る事を得しは此時代に於ける墳墓構造の研究上無二の資料なりとす。

椁内東部南方に偏して漆塗の木棺一雙を安置し、西の棺には遺物無く、東の棺よりは飾るに瑠璃の小玉を以てせる結びしま、の毛髮、指輪三個等を出せり。後者は蓋婦人の棺なるべし。棺外床上より白銅鏡二面、美なる文様ある漆器及び陶器の破片等を出せり。又桃の核二を發見せり、當初桃の實を藏めしものなるべし。

(五)大同郡大同江面第二墳

大同郡大同江面貞柏里に在り丘陵上に存す。地山に深く壙を穿ち、其構造全然第六墳に同じかりしが如きも今崩壞甚し、木棺一雙を安んずる事亦第六墳に同じ。椁内よりは白銅鏡二面、美なる文様ある漆器數點、青銅製提柄、其他陶器破片を出し、調査中高低不定の處より若干の鐵鏃を獲たり。

五 埴埴にして木製の天井を有せし墳墓

(六)大同郡大同江面第八墳

一一

大同郡大同江面石巖里なる丘陵の前南山と稱する部に在り。長方形の二室丁字形に連接し底部には塼を敷き四壁は垂直にて恐らくは上部に木材を架し天井を構成し居りしなるべし。羨道は缺如し僅に塼一枚積の前室前壁を開いて上に楣石を架して羨門とせるのみ。羨門は外面に接して一枚積の塼壁を以て閉塞せられ居れり。此塼塼を築く爲には左方は地山を比較的多く切り下げたれども右方は少許に過ぎず。

玄室内部には内外に漆を塗れる木棺を安んじ、内に人骨の腐朽して灰の如くなれるもの、外、頭部及び足部には五銖錢散在し、右側には縞にさしたる五銖錢、左側には弩機あり、棺外にも人骨の形迹ありて其側より五銖錢及び水晶玉、琥珀玉等を發見し、又、棺臺の前に接して鐵製の戟を獲、前室よりは陶器の破片を發見せり。

六 塼塼にして穹窿天井を有する墳墓

(七)大同郡大同江面第七墳

大同郡大同江面石巖里に在り第六墳を西南に距る約六町の地に存す。赤土質の地山を掘り下げて塼塼を築き、天井は穹窿なりしなるべく、今崩落せり、床は塼を網代に敷き

室の左方壁に接して塼床を設く、羨道は稍長くして其天井は三段を成し、玄室に近きもの最低く、次は稍高く、其次に楣石あり。入口は塼を重ねて閉塞せり。玄室内よりは甕・埴・焔爐・甑等の夥しき陶器破片、漆器、木櫛及び銀製指輪等を發見せり。

(八)大同郡大同江面第十墳

大同郡大同江面石巖里、第九墳の北方約百間許、石巖里の小部落の西々南に接して、畑中に存す。今畑地の表面より約三尺許下に塼床を存すれども、蓋、其南方なる丘陵元山の土流下して周圍の地盤高くなりしなるべく、當初は地平線上に塼塼を構築せし者の如し。單室小規模の墳墓にして、羨道は稍長かりしなるべし。塼に「王宜」或は「王平」の銘あり、又往々にして「王」の一字のみ存す。

玄室内には低き塼築の隔壁を前後に設け、更に其右後壁に接して短き塼塼を作れり、此塼塼の附近よりは銀製釧、指輪、琥珀製の飾玉、五銖錢等を獲たり。

(九)大同郡大同江面第四墳

大同郡大同江面貞柏里、第一墳の南方約四町の丘陵上に、二尺餘地山を切り下げて一枚積の塼塼を構へたる土墳にして天井は既に崩落せり、床には塼を敷き室内稍西に偏して長方形の棺座と思はるゝものあり。羨道は左に偏せり。

一三

副葬品の遺存せし者は陶器及び漆器の破片等にして、羨道外よりは陶製埴一を獲たり。

一四

(二〇)大同郡大同江面第一墳

大同郡大同江面貞柏里なる部落の西北の丘上に七基の古墳ありて一群を成す。第一墳は其中央に在りて、形勝の地を占めたる雄大なる方墳なり。埴樽は頗廣大なるものにして三室を有し穹窿天井なりしも前後兩室の天井は崩壊し側室のもの、み儼乎として存す。羨道は稍長し。此墳墓は埴樽を築くに際し、前方及び左方は全々地山の上に構へ後方も亦然れども、右方は多少地山を切り垣けて造りたる形迹あり。

此墳墓は、其規模宏大なるに最形勝の地を占めたるより考へて、或は樂浪太守などの如き重要な地位を有せし者の墳墓ならんか。惜い哉既に昔時發かれて、今骨片所々に散亂し、僅に五銖錢・貨泉・陶器・漆器・布帛等の殘片を遺せしに過ぎず。又、調査の際、高低不定の位置より多少の鐵鏃を獲たり。

七 埴の殘缺を以て埴を造れる墳墓

(一一)大同郡大同江面第五墳

大同郡大同江面貞柏里、第四墳の西南約十五間許の距離に在り。一墳中に二埴樽を有

す。規模狭小、構造甚粗、共に地山の上にまこして埴の殘缺を以て埴を營造せる者なり。

此墳墓には何等の副葬品をも遺さざりき。

八 結 語

要するに、平壤附近に於ける樂浪時代の墳墓は、何れも土墳にして、其外形方臺形を成すを常とす。

内部には木椁のみある者、木椁の底部及び四壁を周つて玉石を入れたるもの、木椁の外部上下四壁を埴を以て張れるもの、底部及び四壁が埴築にして天井のみが木材なるもの、四壁及び底部は元より天井も埴を以て穹窿狀に築ける者等の別あり。

木椁の場合には多く地山に深く壙を穿ちて堅壙式の埴を營み、埴樽の時は單に地山を垣ぐるのみにして其上に横壙式の埴樽を造るものなり。羨道は多くは一方に偏して設けらる、蓋、棺を入れるに便ならしめんが爲なるべし。床は埴を二枚厚に敷き上は多くは網代に組み。又室内に壇の設けあるあり。埴樽にして木造の平天井を有せしと考へらるるものは四壁各垂直の一面を成せども、穹窿天井を有するものは土壓に抗せんが爲に四壁各外方に張り出し曲線狀を成せり。壁は何れも一枚厚にて、埴の積み法は三段平に積

み次に一段丈け縦に積み、次に三段横に、復一段縦に積む者にして、平三段の高き五寸位なり。天井は四方より迫持狀に築き上げ其間隙には陶器又は瓦の破片を挿嵌し、以て穹窿を構成す。塼は鼠色にして側面に幾何學的文様あるを常とす。然れども壁も天井も元來一枚厚なれば比較的薄弱にして千數百年を経過したる今日に在りては大抵崩壊せり。

今回、調査の結果によれば、木椁を有する墳墓は副葬品を出す事多く、塼椁を有する者は之を出す事少し、思ふに塼椁を有するものは其發掘難事にあらず、又、穹窿陥落塼の現はるゝあらば塼を得んとする里人等に發かれて期せずして副葬品の取去らるゝ事あり。

然れども木椁を有するものは木材朽ちて一度陥没せば副葬品の存する底部に達せんには二十尺許も掘下ぐるを要す。前者は主として地平上に築かれたる横壙式の椁なるに後者は地山を深く穿つて營まれたる豎壙式の椁なるも亦其間の消息を談る者といふべきか。

要するに、小職等今回の調査に因りて、漢魏西晋時代に漢種族が半島に齎せし文化の真相を遺蹟遺物に徴するの資を得たり。今後、調査研究を進むるに従ひて、更に有益なる發見を爲すに至らんか。

平壤附近に於ける樂浪時代の墳墓

一終

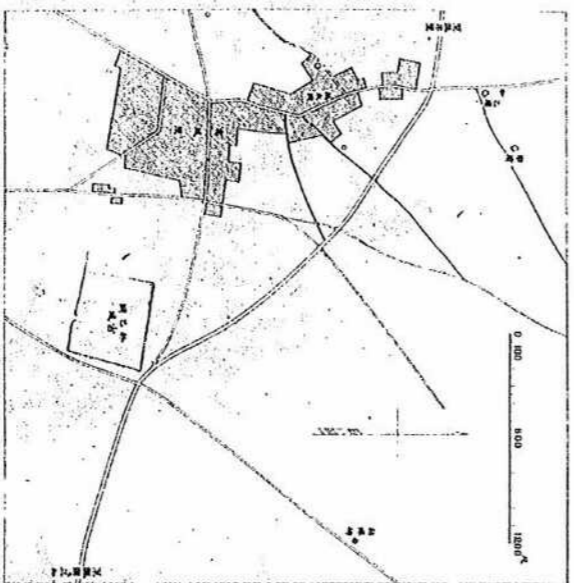


圖 平壤附近古墳の位置 (二)

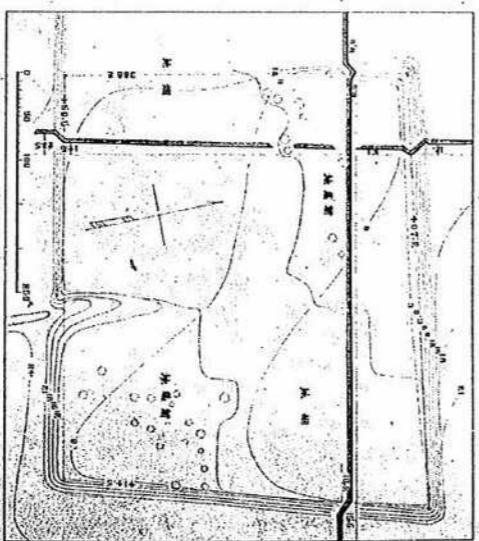
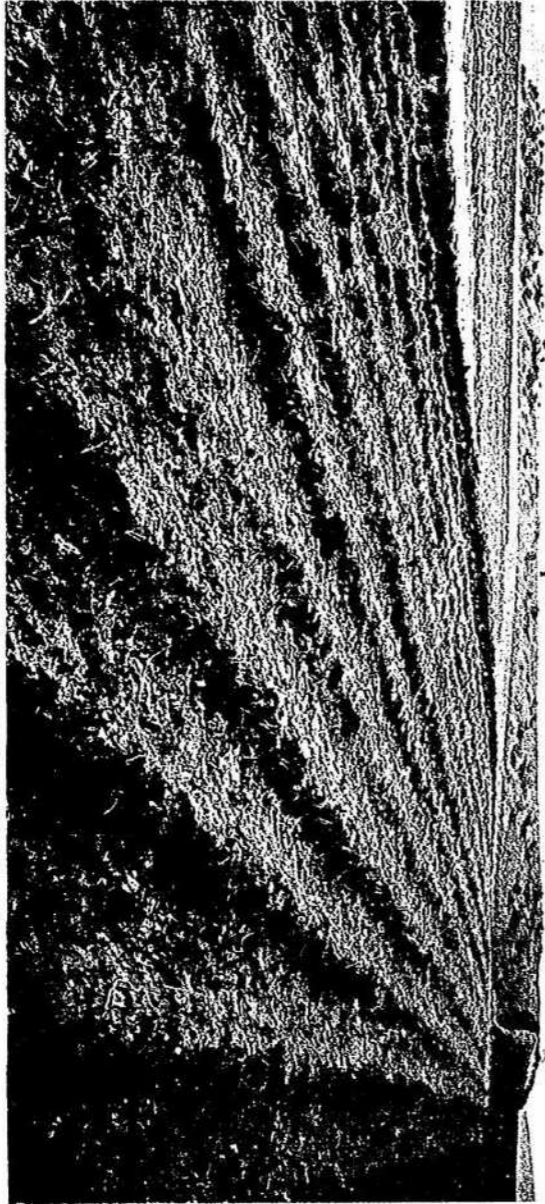
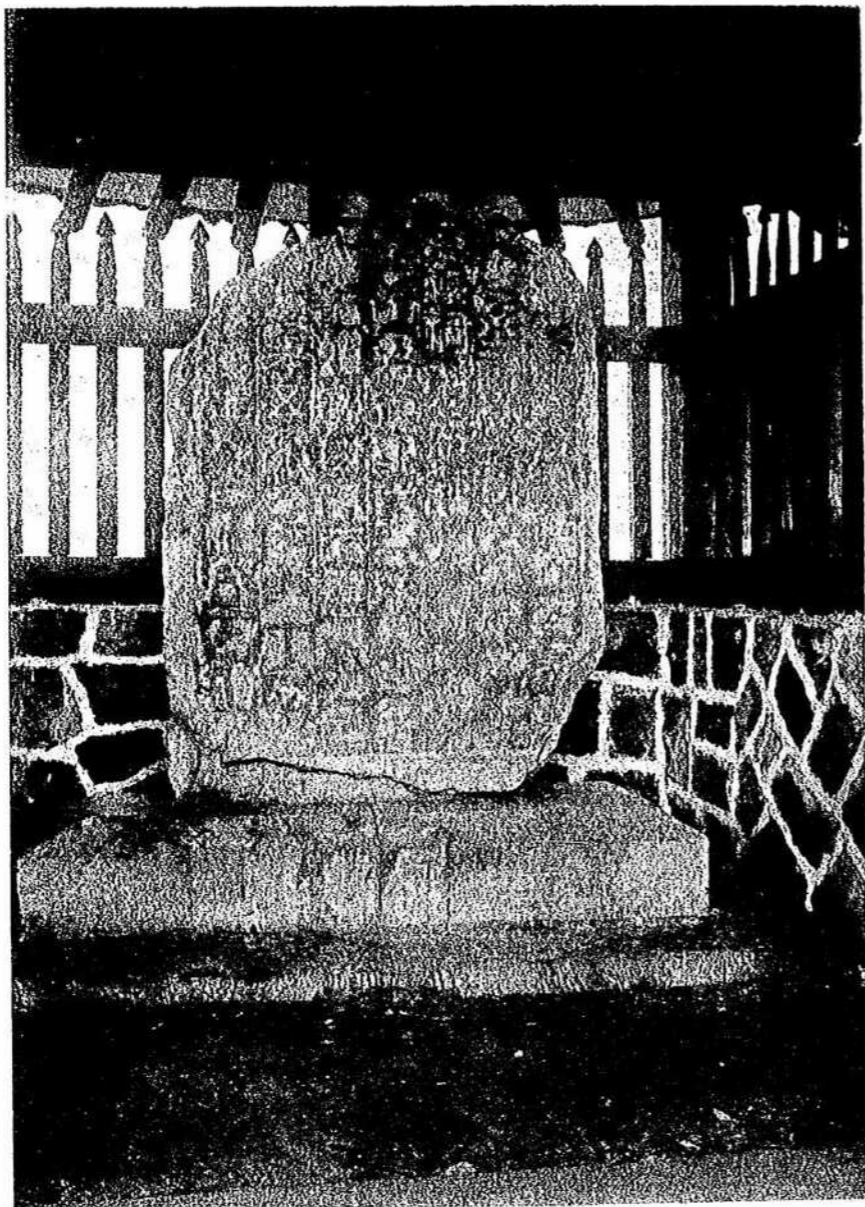


圖 平壤附近古墳の位置 (一)

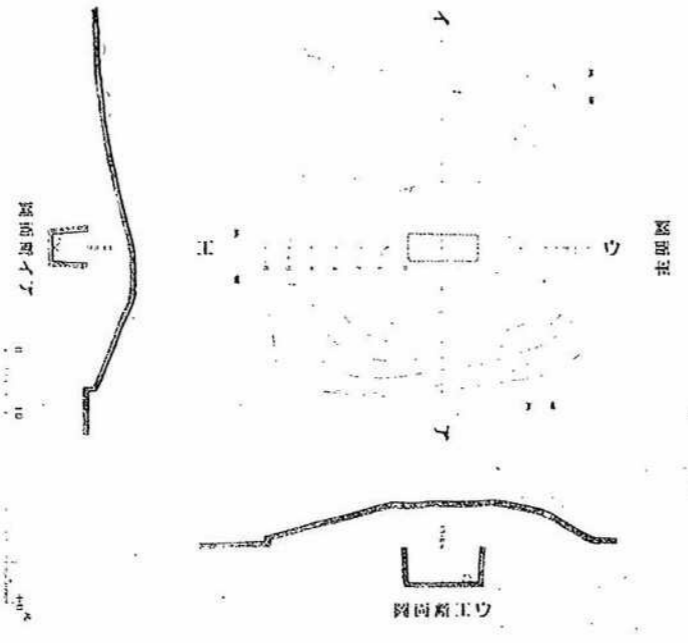
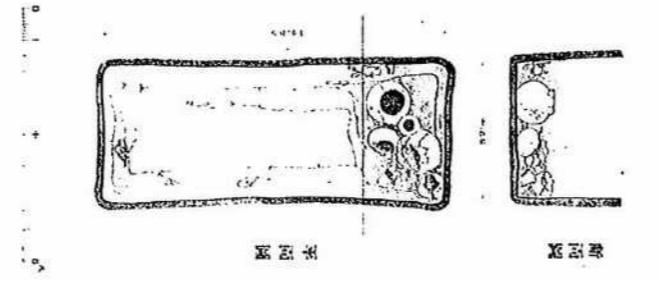


安南河經峽里坡之古坡京圖 (三)



一九

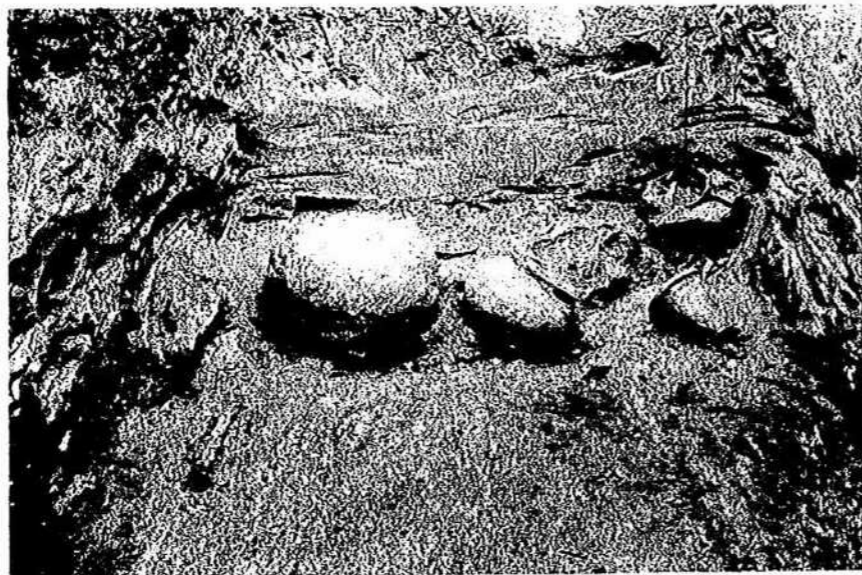
碑碑新里井龍而雲海郡國龍道南安平(四)



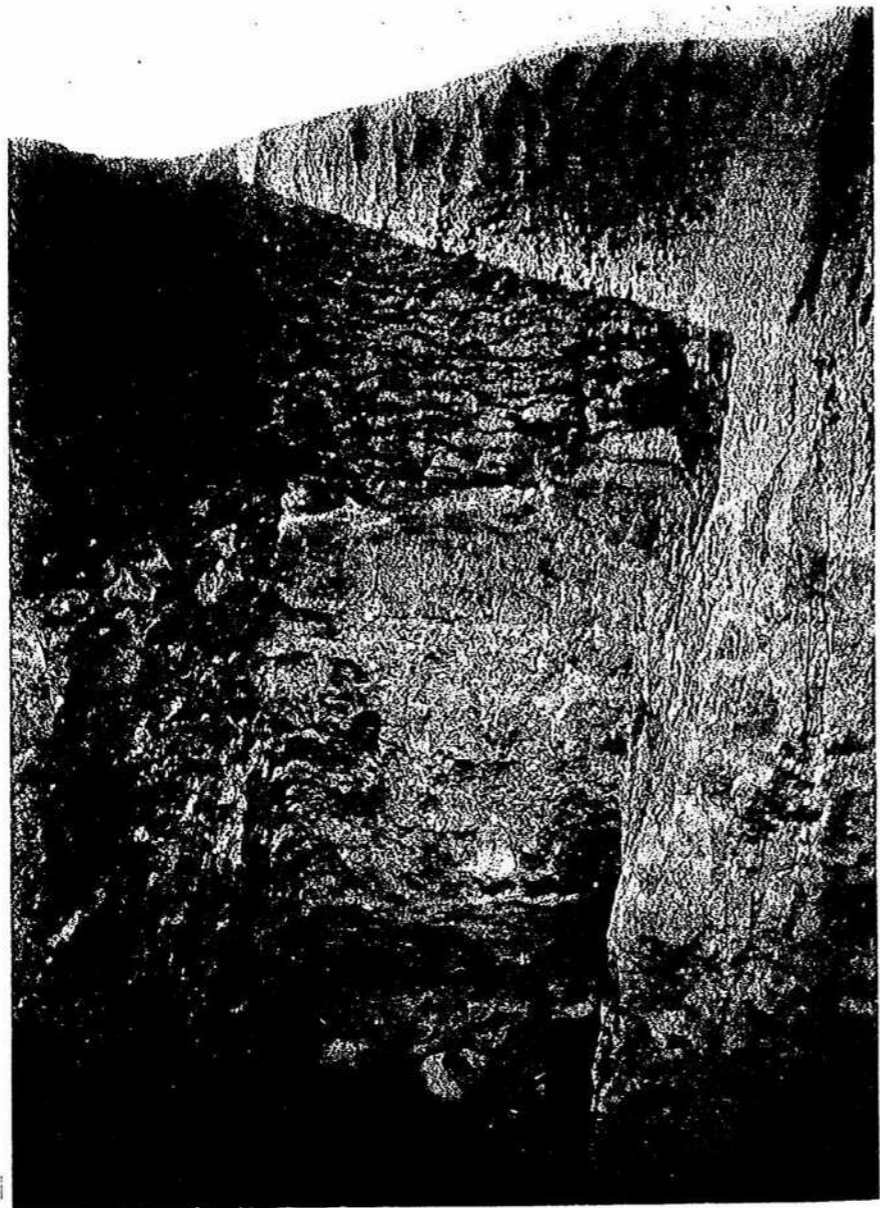
圖測實墳甲里城葛而雲海都岡龍道南安平(五)



填甲里城葛面雲海都岡龍道南安平(六)



泥狀土出品葬副墳同(七)

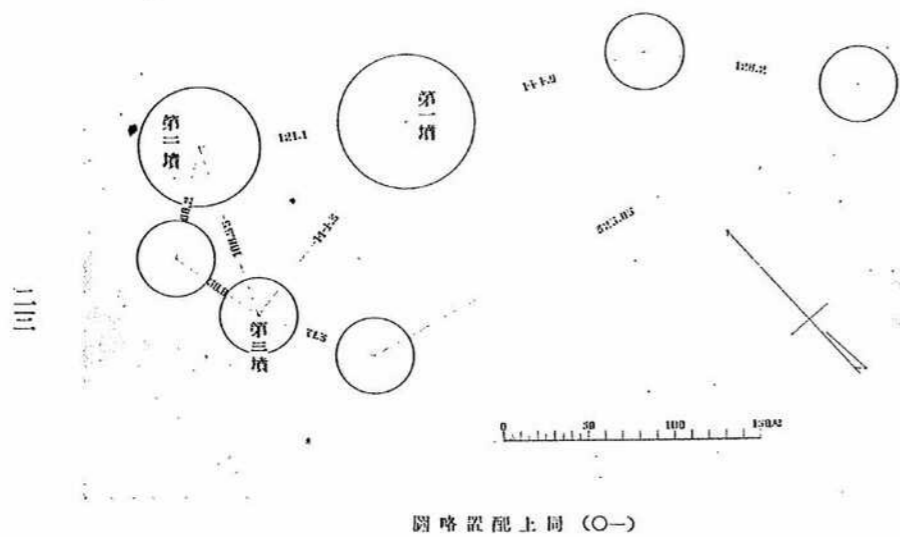


三三

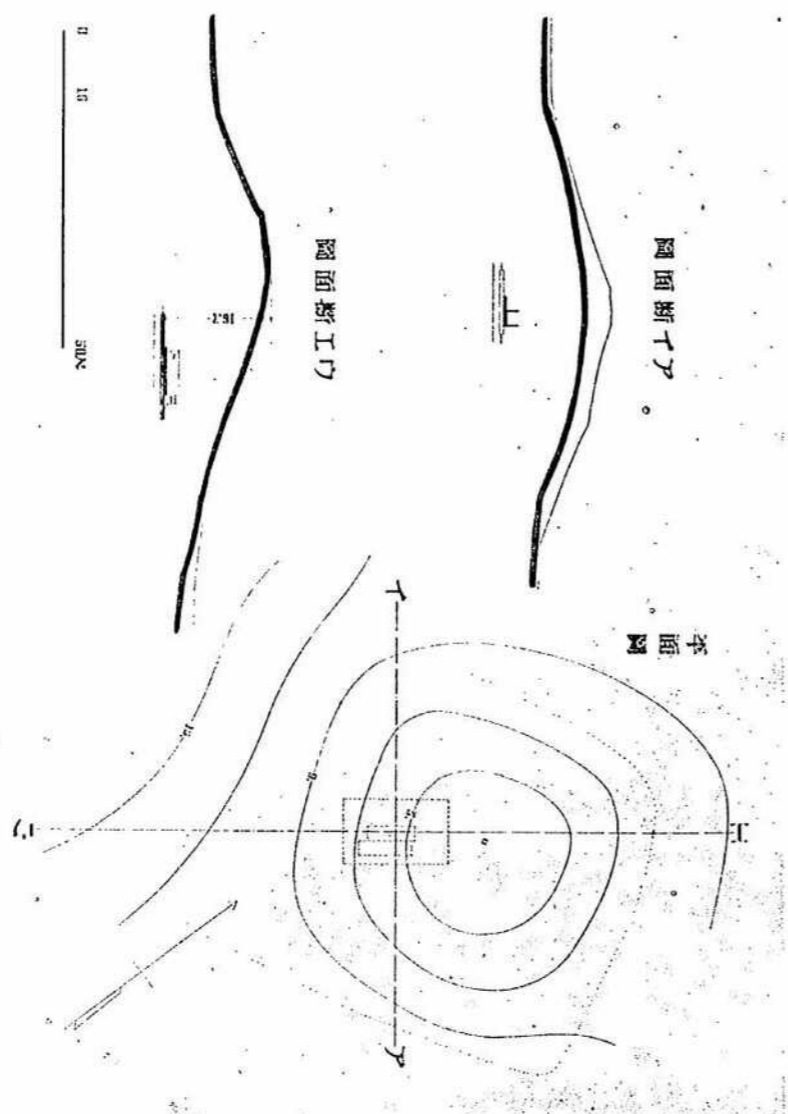
内城填甲 里城葛面雲海郡岡龍道南安平 (八)



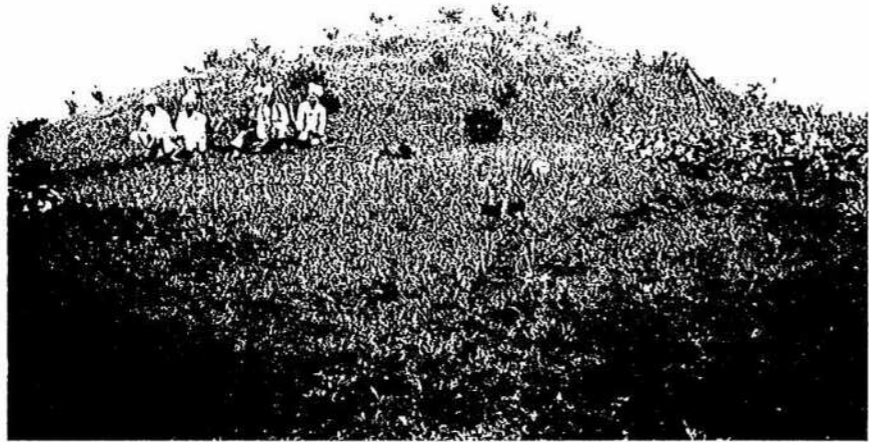
景全群墳古近附墳一第 面江同大郡同大遠南安平 (九)



圖略置配上同 (〇—)



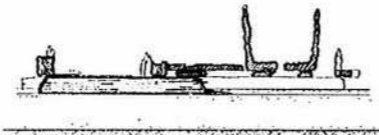
圖測實填三第 面江同大部同大道南安平 (一)



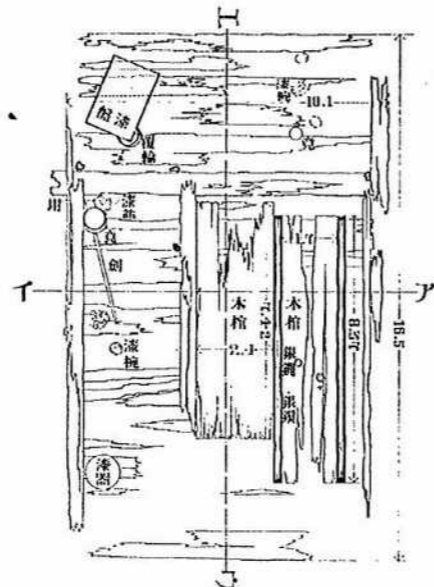
墳三第 面江同大郡同大道南安平 (二一)



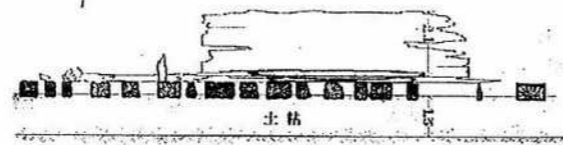
況狀掘發品葬副墳同 (三一)



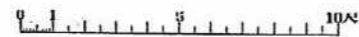
圖面斷イア



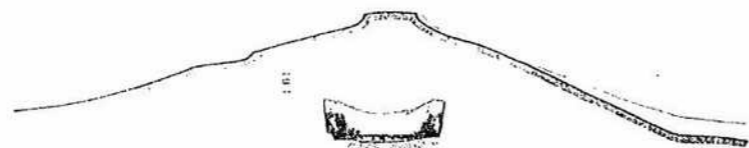
圖面平



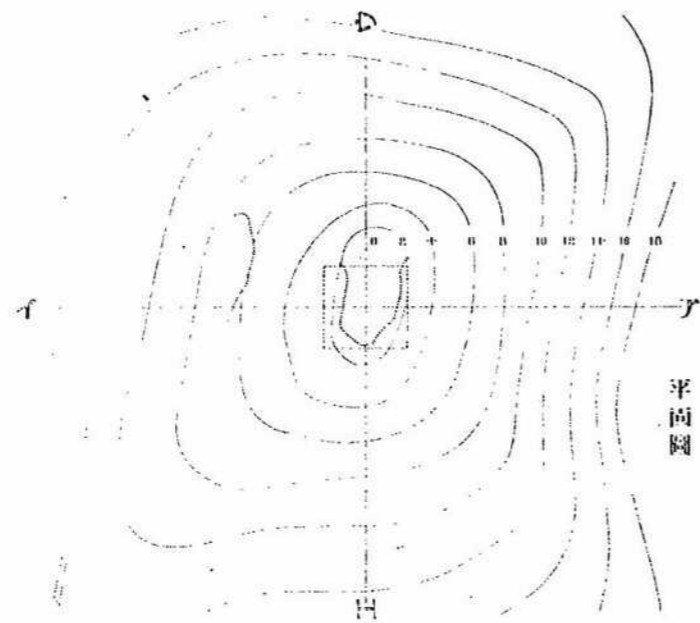
圖面斷工均



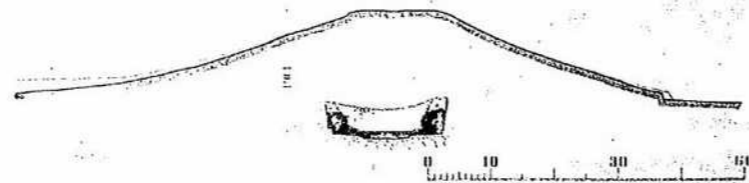
圖測實部内填三第 面江同大郡同大道南安平 (四一)



丁イ断面圖



平面圖

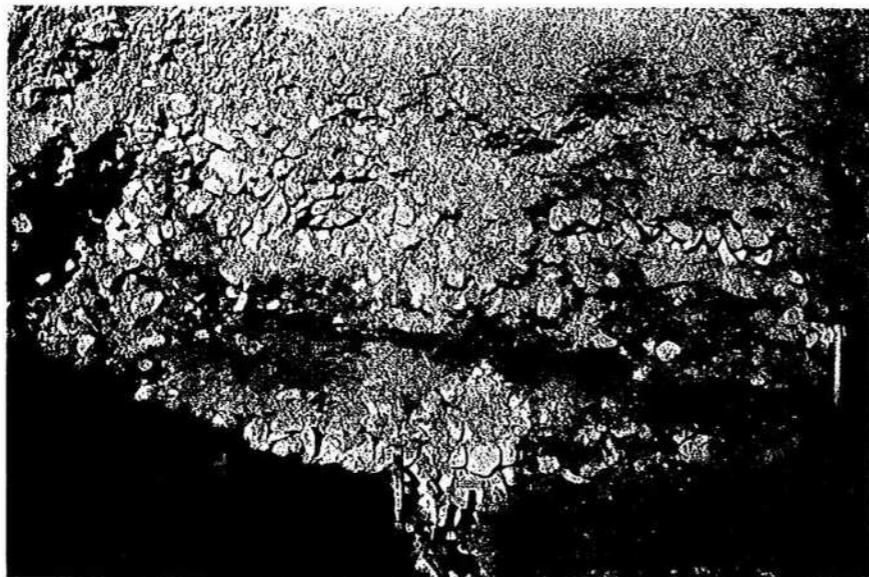


ウ断面圖

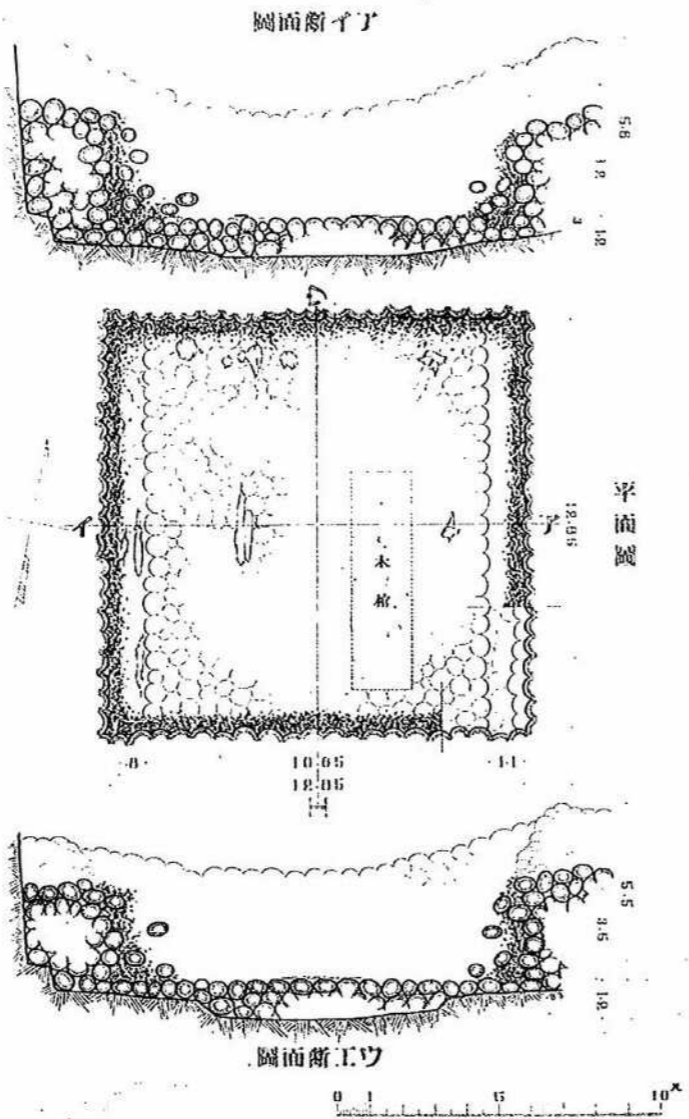
圖測實填九第 面江同大郡同大造南安平 (五一)



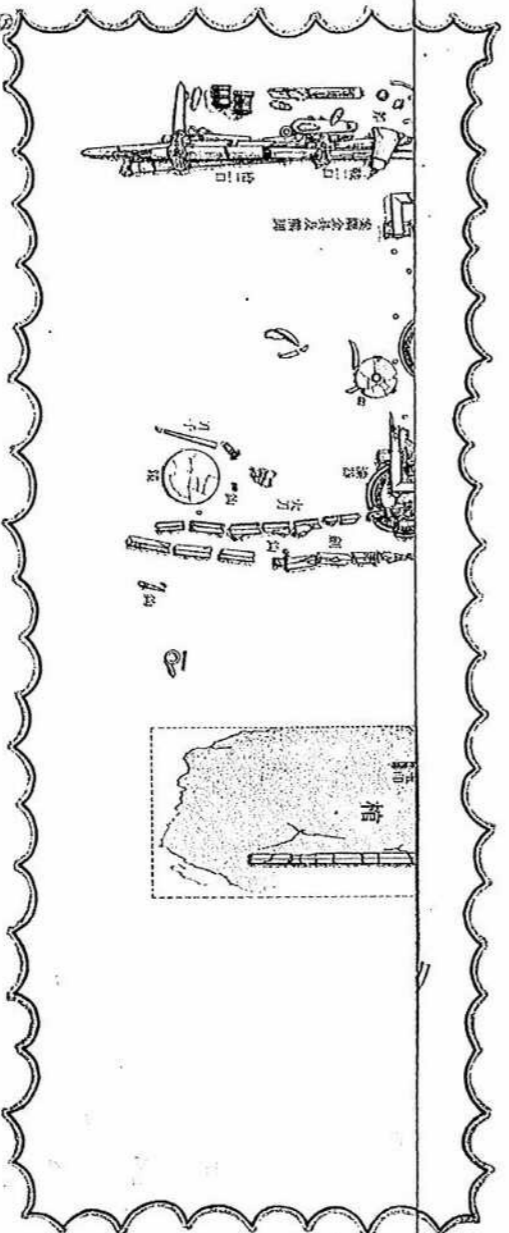
堆九第 面江同大郡同大道南安平 (六-)



部北内城填同 (七-)

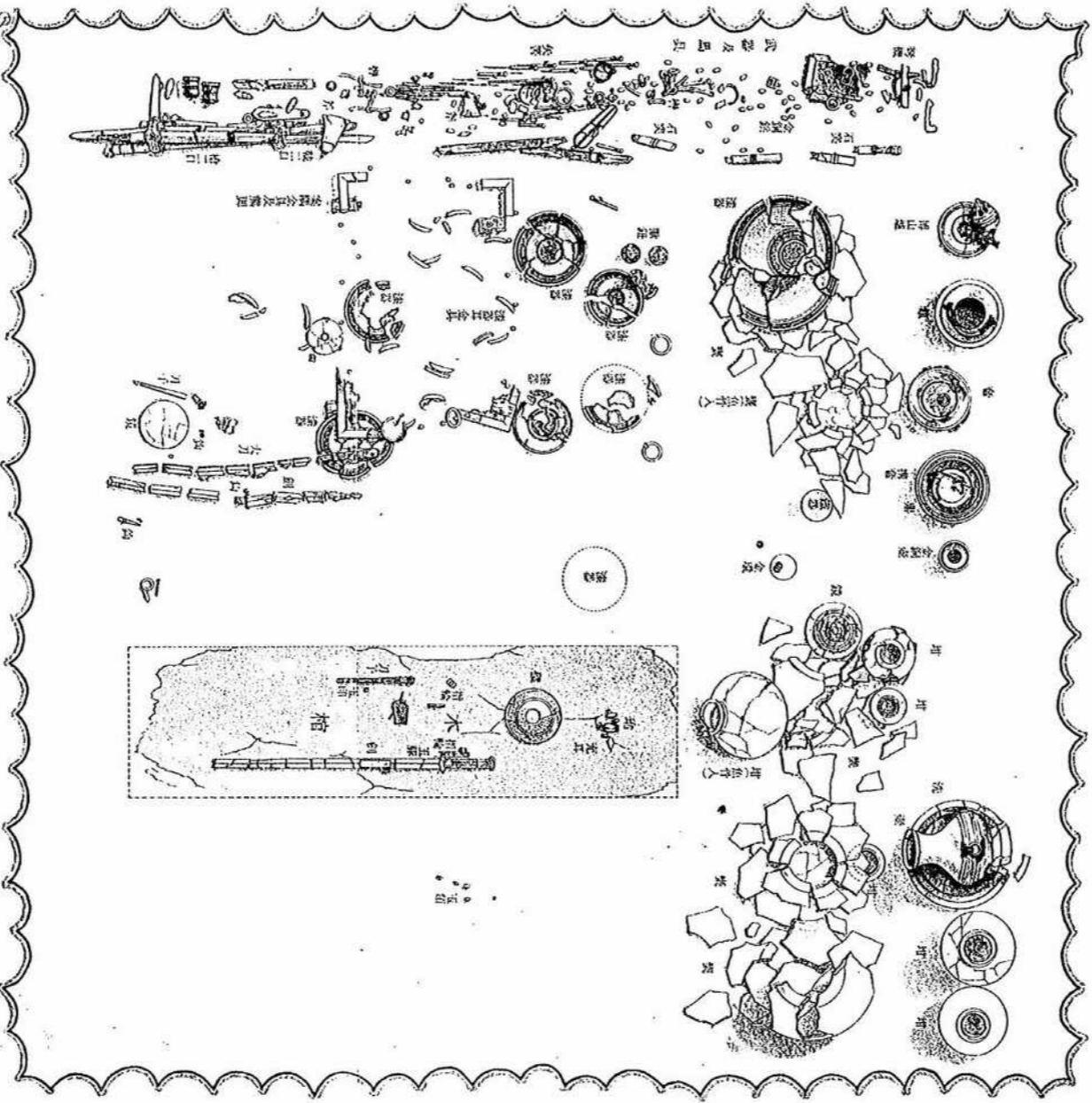


圖測實部內填九第 面江同大部同大道南安平 (八一)



遺物配置圖
 不南大郡同大縣江面 第九號墓 (九一)





遺物配置圖

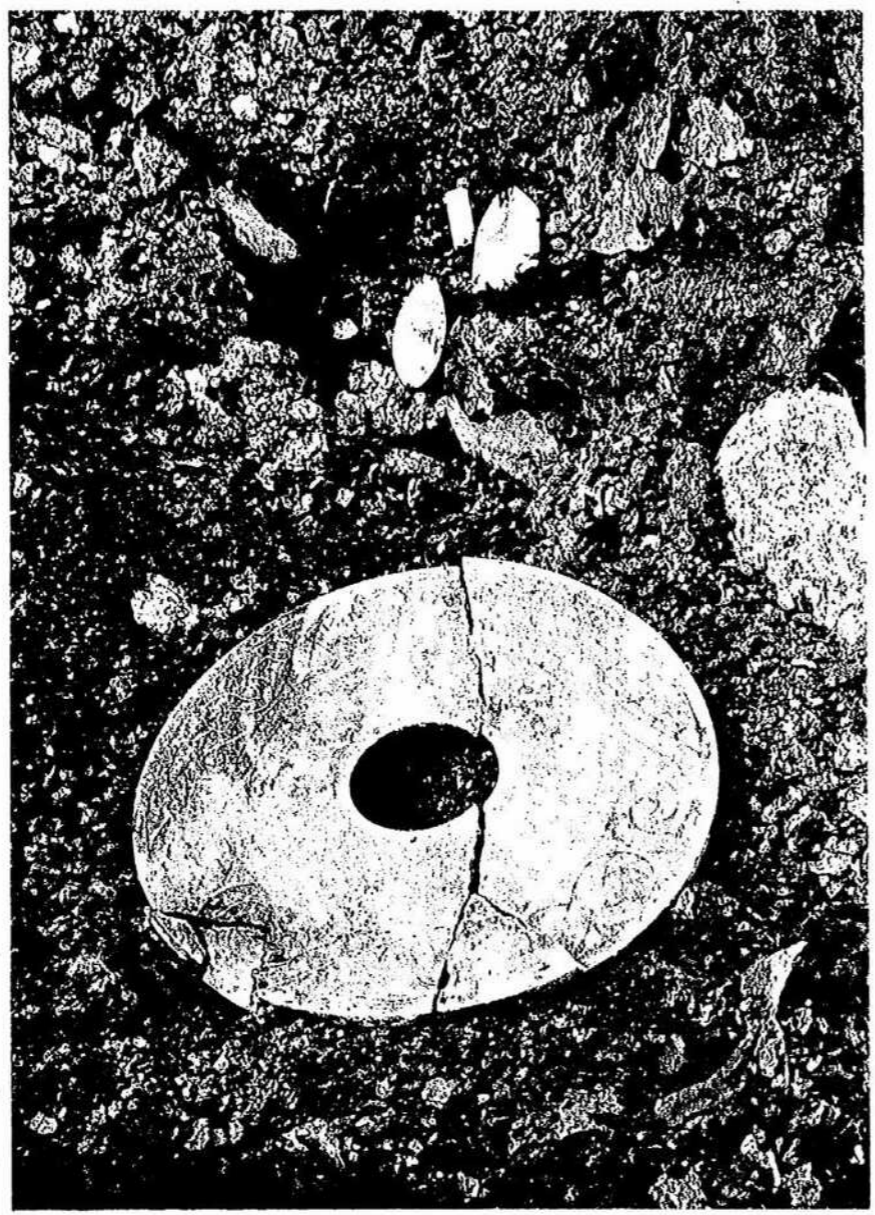
（九一） 平安南道大同江面第九號墳



110

裏面白紙

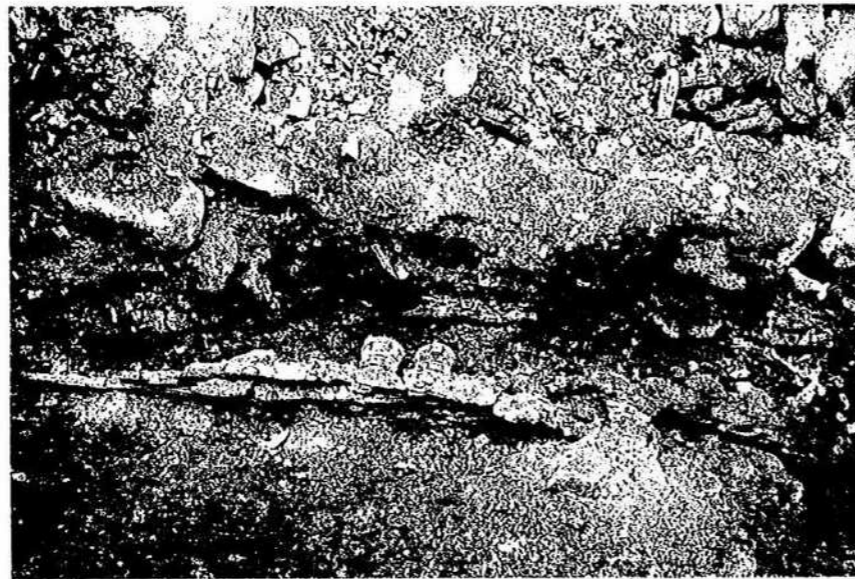




一其況狀土出品葬副墳九第 面江同大郡岡大道南安平 (〇二)



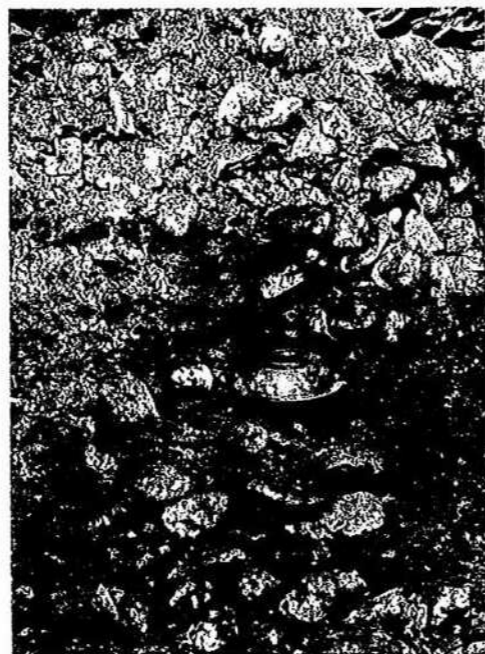
二其況狀土出品葬副墳九第 而江同大郡同大道南安平 (一二)



三其況狀土出品葬副墳同 (二二)



四其况狀土出品葬副墳九第 面江同大部同大道南安平 (三二)

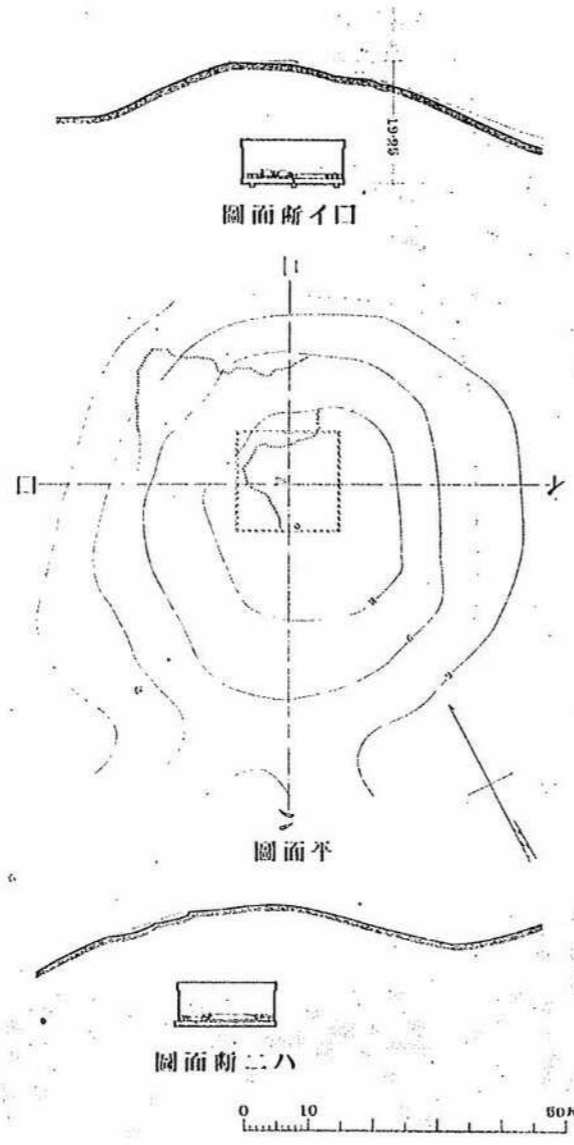


五其况狀土出品葬副墳同 (四二)



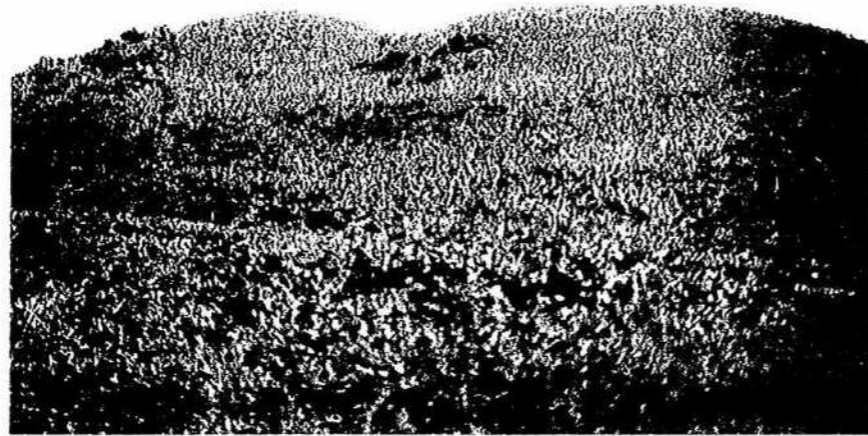
六耳范狀土出品舞圖其九第 甌江開大郡同大遺附安平 (五二)

川五



圖湖實城六第 面江同大都同大道南安平 (六二)

三五



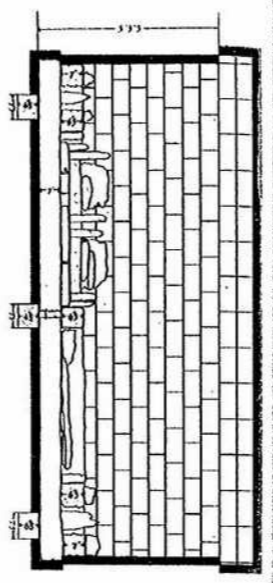
填六第 面江同大郡同大道南安平 (七二)



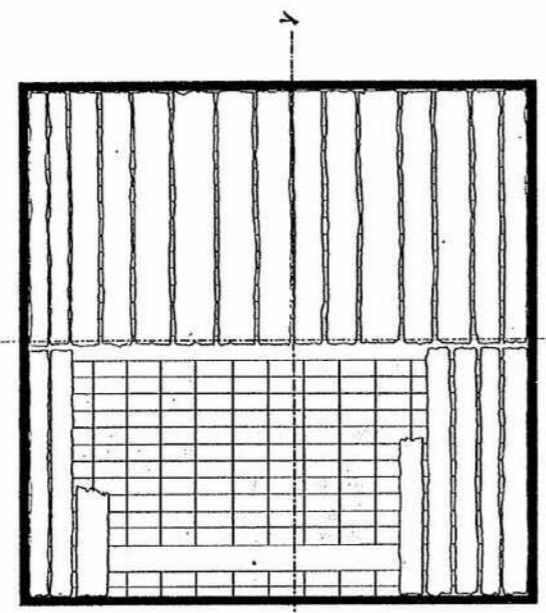
(△ 望 方北) 况状没陷非天塔填同 (八二)



(△) 第六号井状投置非天球坑六第 前江前大郡同大造南安平 (△二)
三三

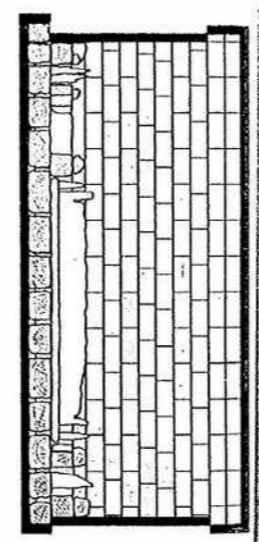


一、断面圖(但塔壁之復原圖)

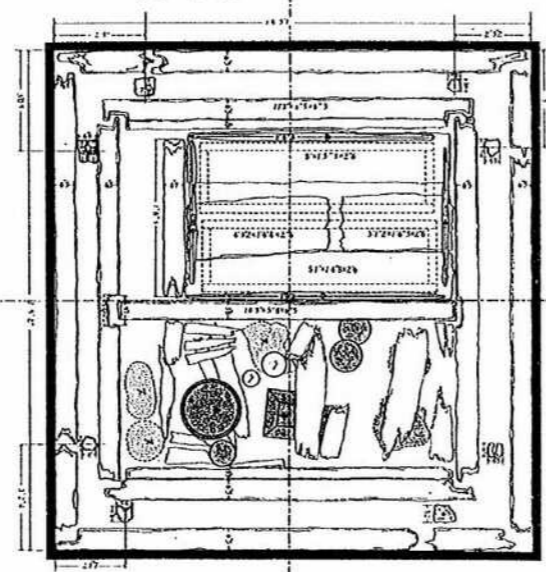


二、平面圖

圖面平瓦敷及床 圖面平瓦敷及床 圖面平瓦敷及床



二、断面圖(但塔壁之復原圖)



三、平面圖

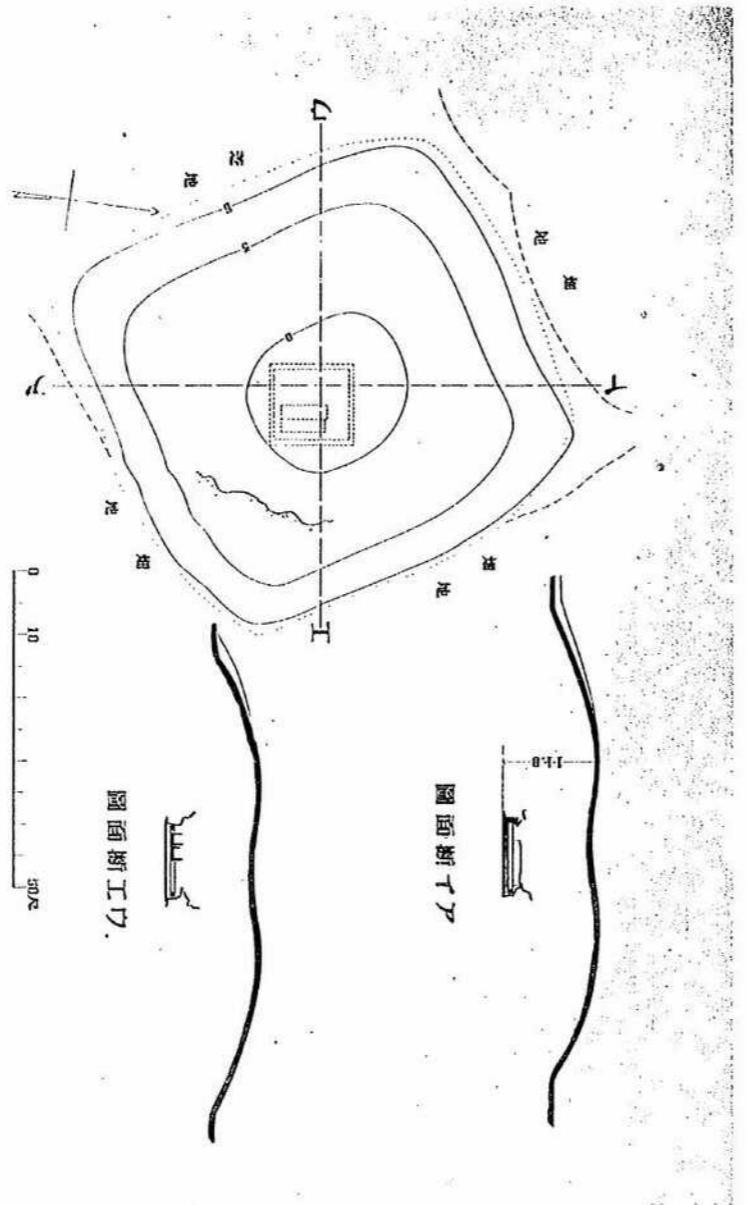
圖面平瓦敷及床 圖面平瓦敷及床 圖面平瓦敷及床

- (1) 塔壁(瓦片)之圖及土器
- (2) 塔壁(瓦片)之圖及土器
- (3) 塔壁(瓦片)之圖及土器

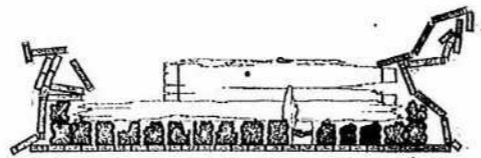


第 六 次 筑 内 部 大 道 河 大 部 同 江 面 第 六 次 筑 内 部 (二 三)

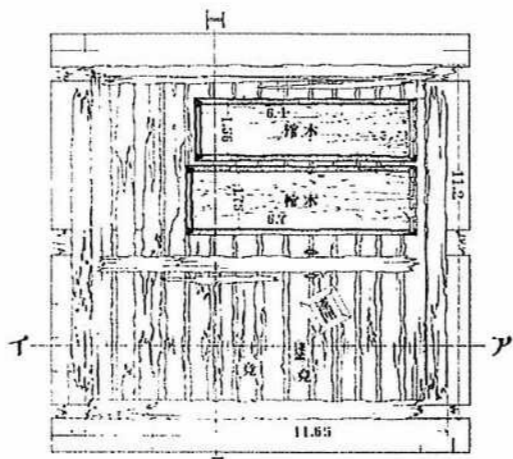
四〇



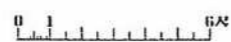
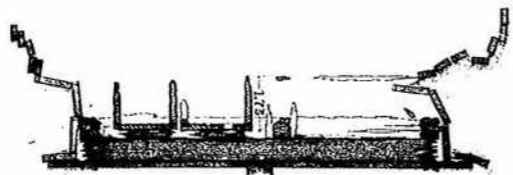
圖湖實境二第 薩江開天部同人造南安个 (三三)



圖面期イア



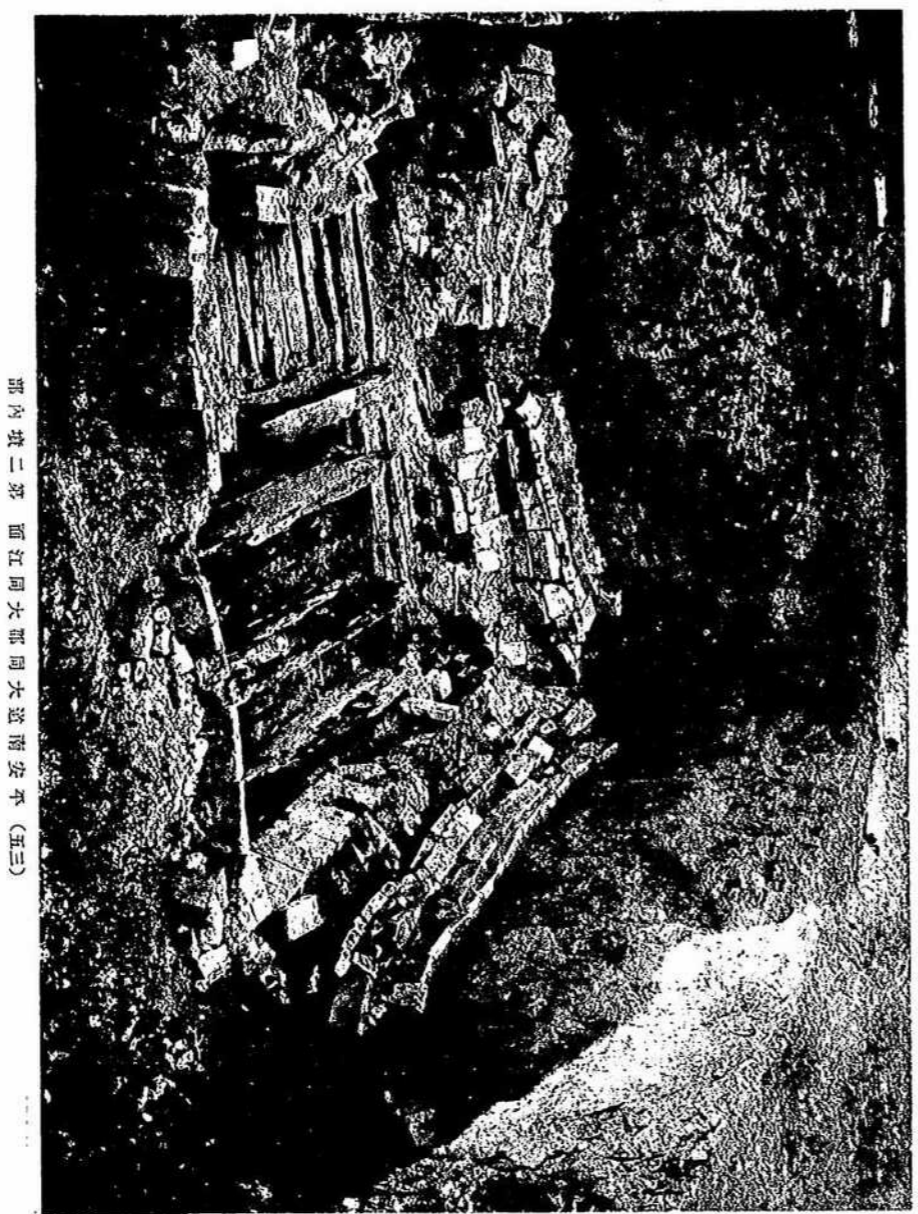
圖面平



圖面斯工ウ

四二

圖測實部内填二第 面江同大郡同大道南安平 (四三)

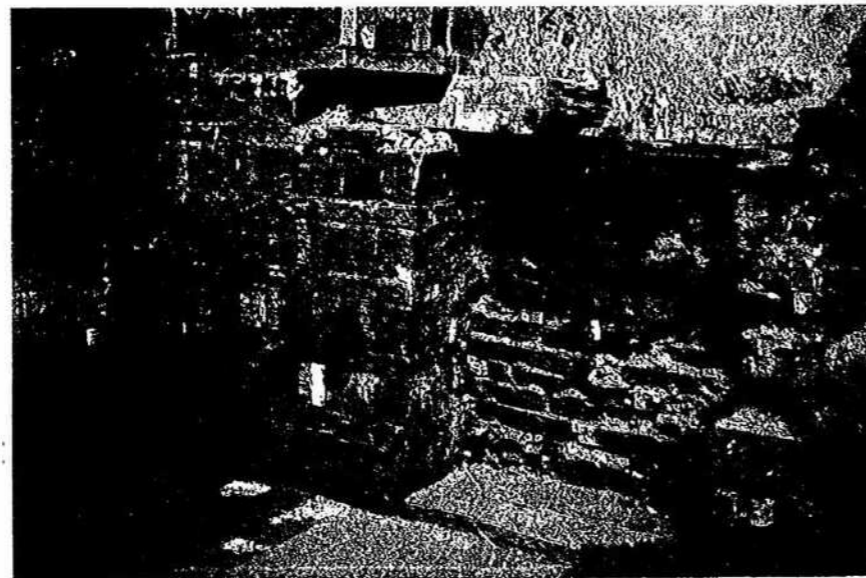


部内城二部 面江同大郡同大造南安平 (五三)

三三

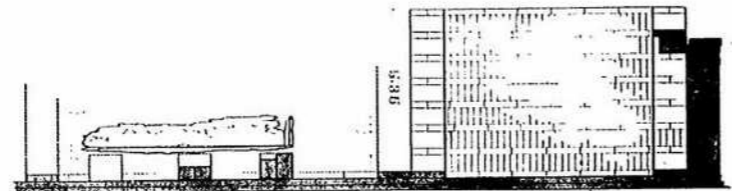


填入第 面江同大郡同大道南安平 (七三)

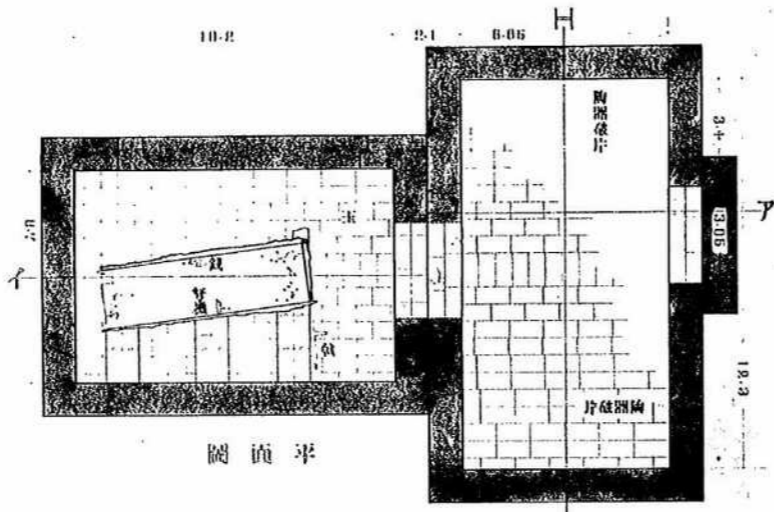


壁東室前填同 (八三)

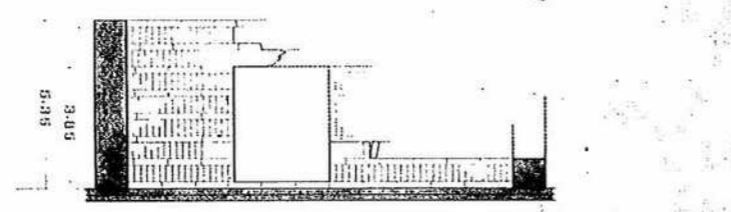
四五



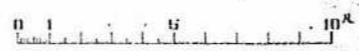
圖面斷イ了



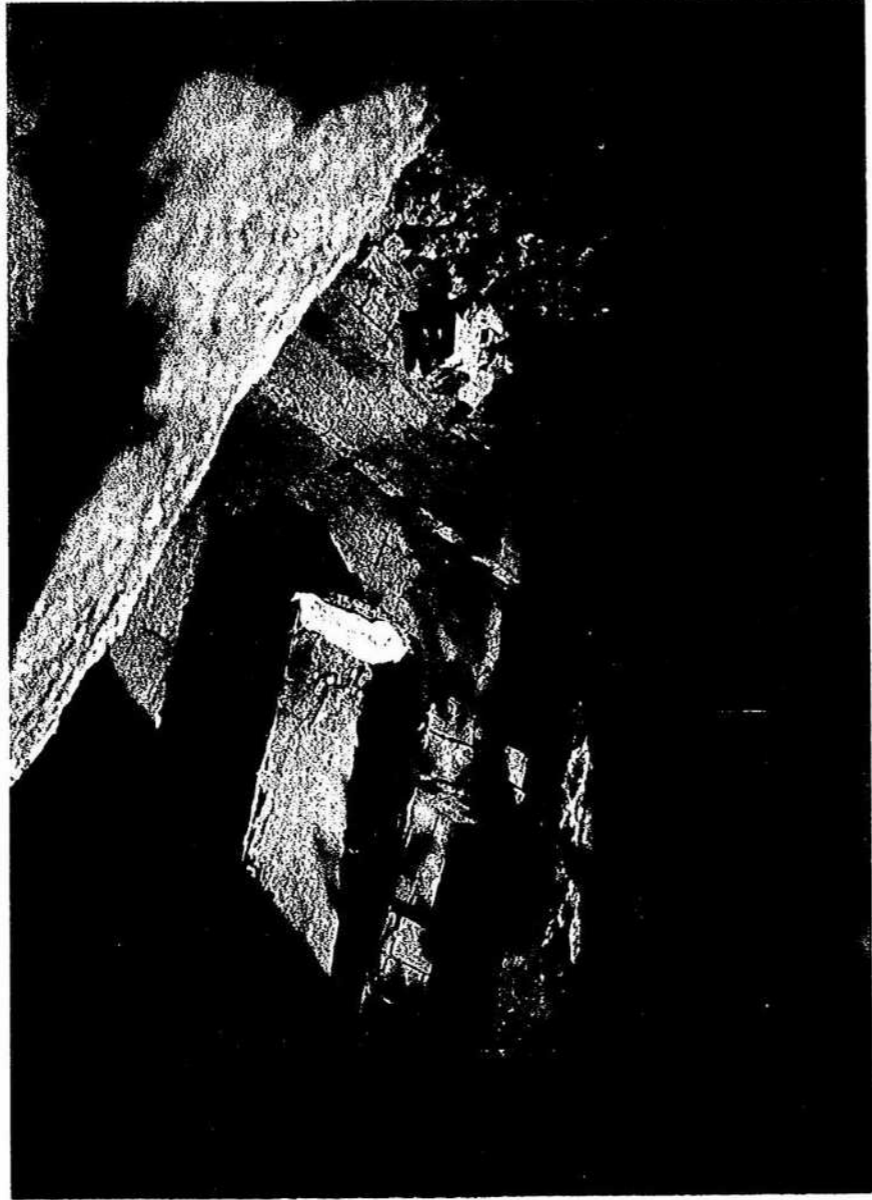
圖面平



圖面斷工ウ

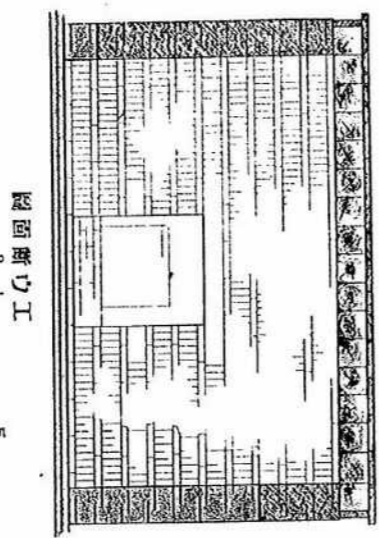
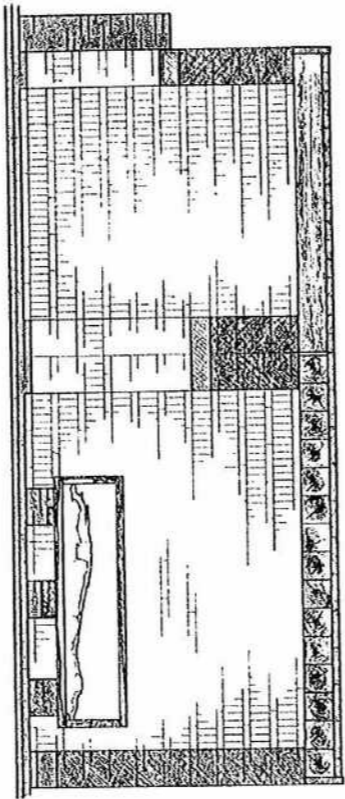


圖測實部内墳入第 面江同大郡同大道南安平 (九三)



在芝城入第 面江同大都河大道南安平 (〇四)

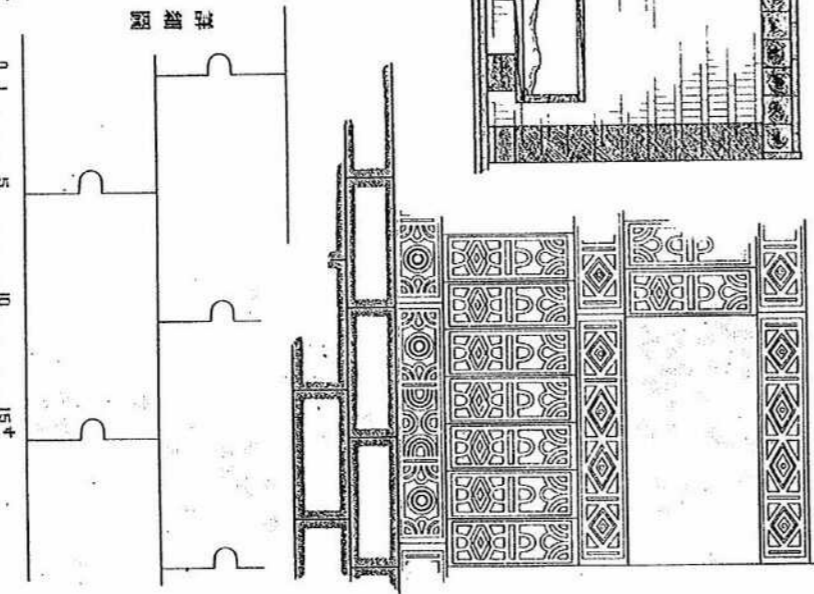
圖面新丁イ



圖面新ウ工

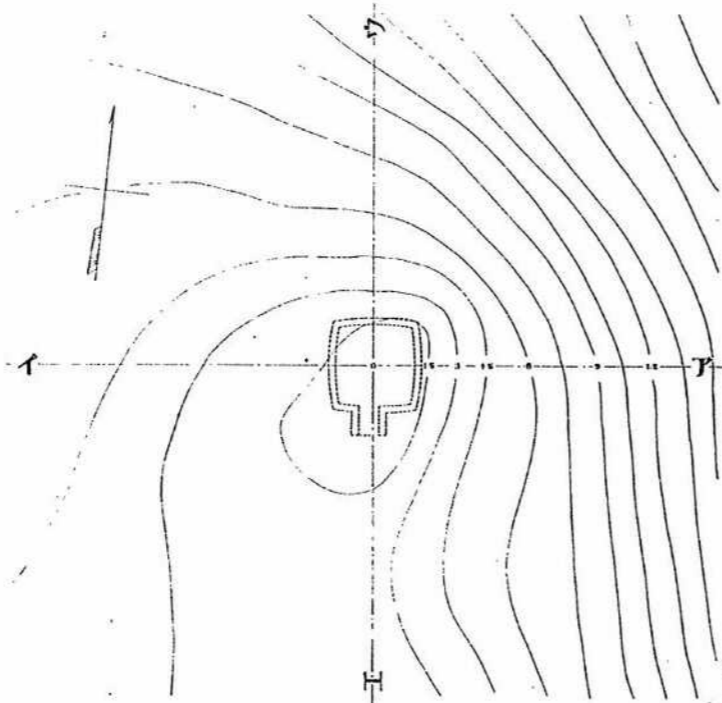
(スホチ分節ノ在現ハ色彩印)圖面新ウ工内境入第 面江阿大部同大造南安平 (一四)

透視圖





圖面断工ウ



圖面平

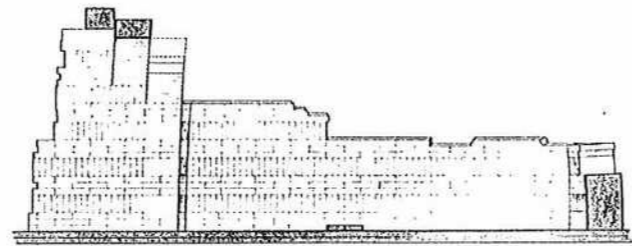


圖面断イ了

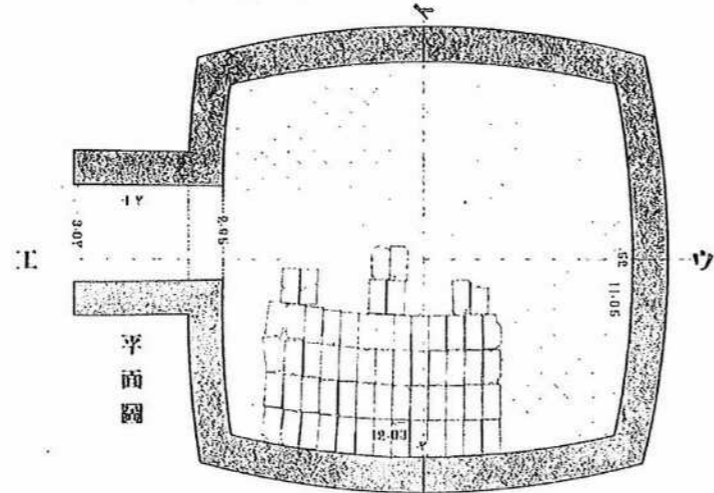


四九

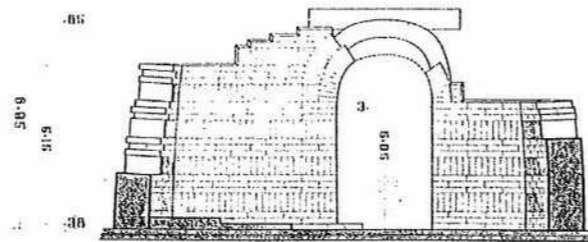
圖湖實墳七第 面江同大部同大道南安平 (二四)



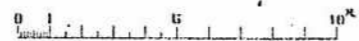
圖面新工ツ



平面圖



圖面新了イ

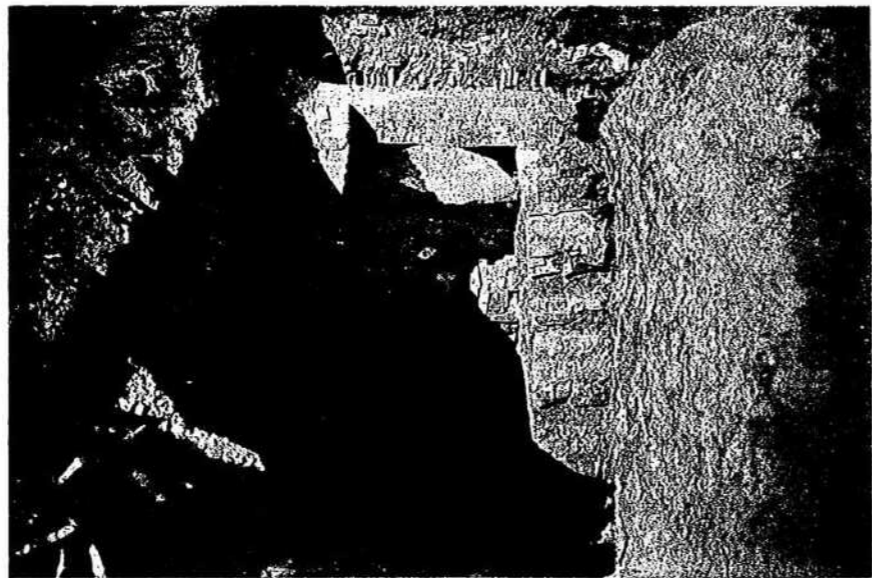


五〇

圖測實部內填七第 面江同大部同大道南安平 (三四)



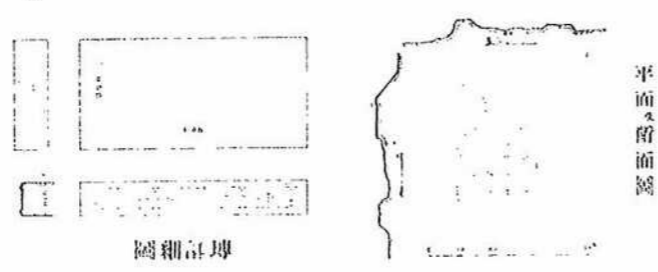
墳七第 面江同大郡同大道南安平 (四四)



部外道奠墳同 (五四)

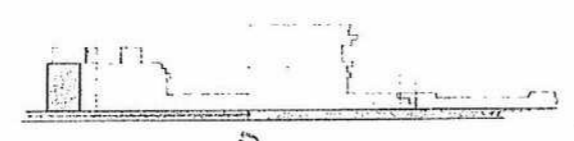


江蘇省江都縣大觀園大觀園碑（六四）

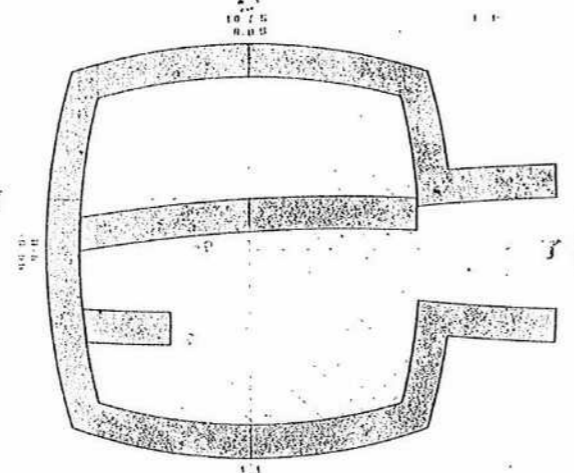


平面及剖面圖

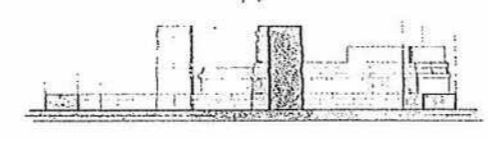
圖細部



了才剖面圖



平面圖



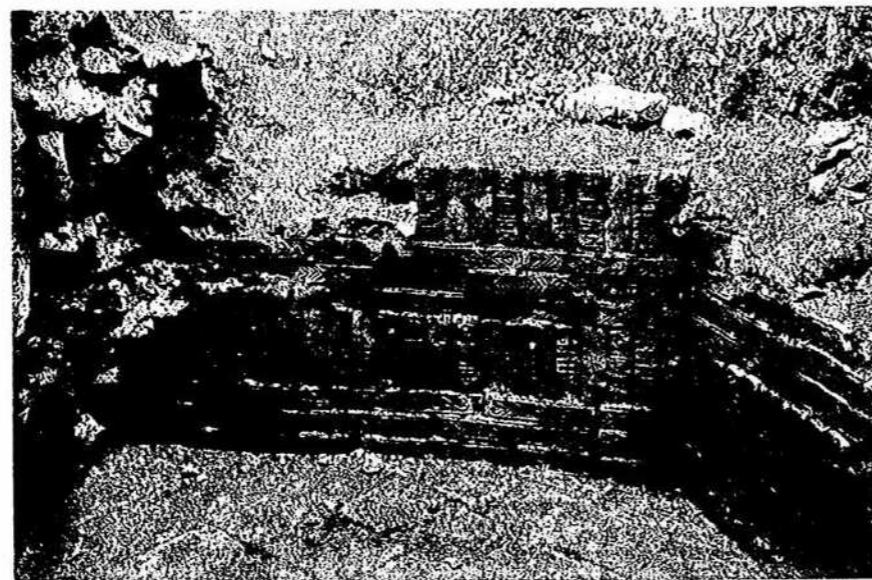
ウ江断面圖

圖湖實墳十第 面江同大郡同大遺南安平 (七四)

五三

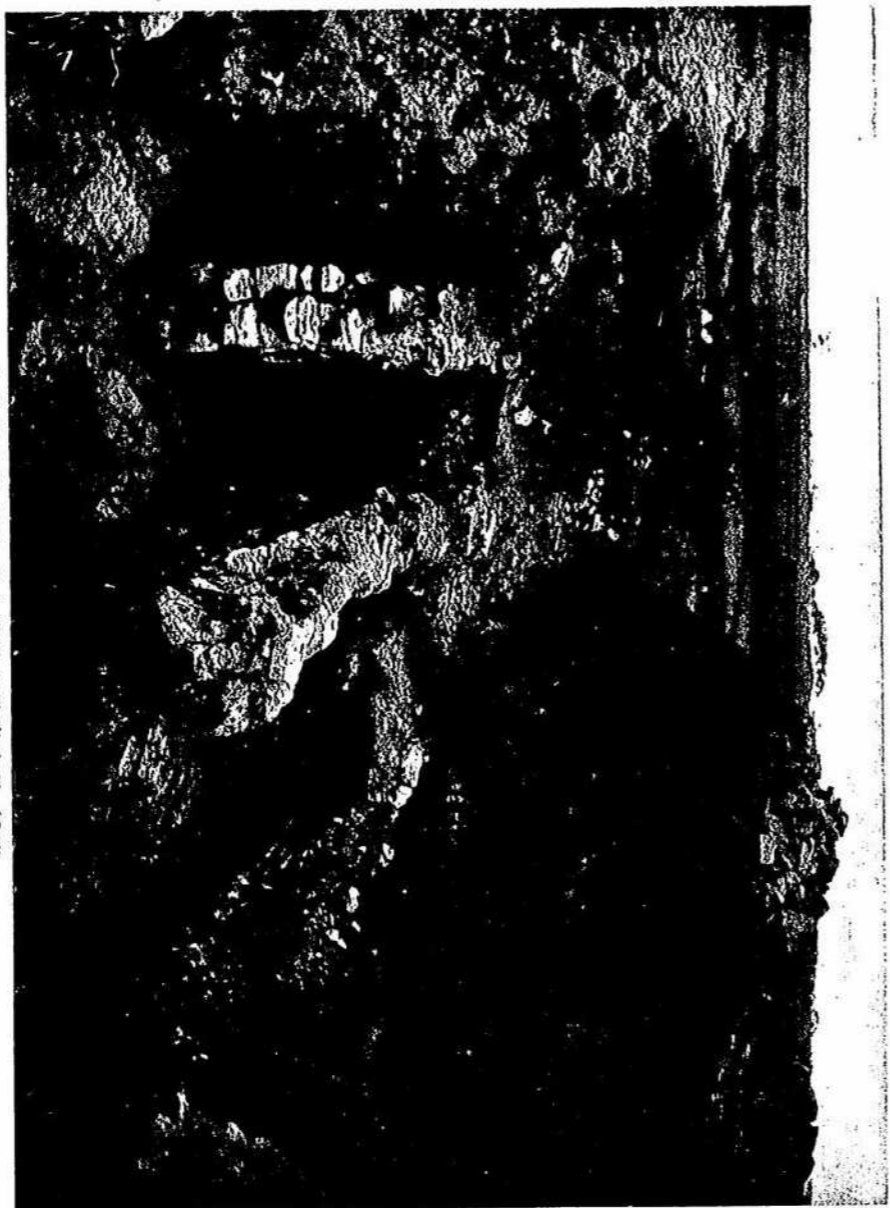


填十第 面江同大郡同大道南安平(八四)

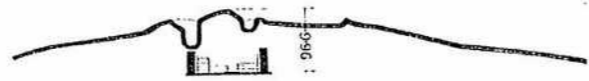


部一壁北室玄填同(九四)

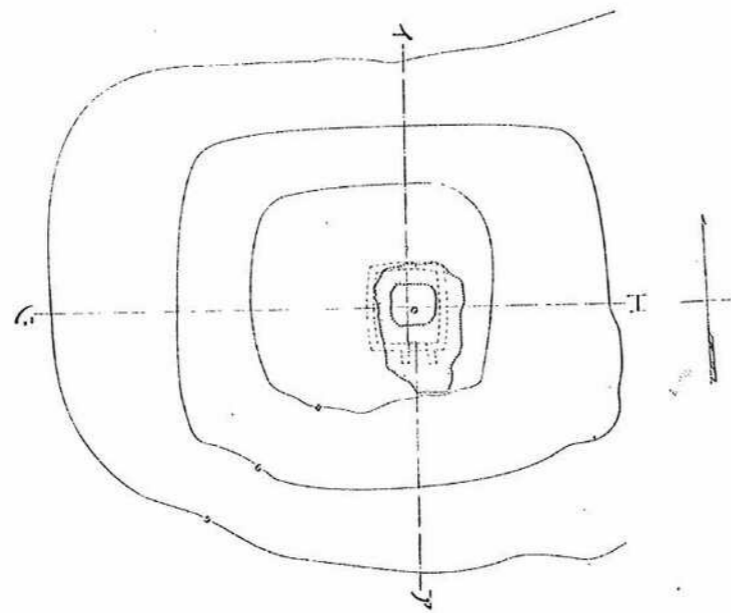
五四



第五十號 江面大橋同大遊南安平 (C五)



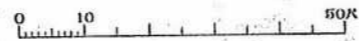
圖面斷工ツ



圖面平

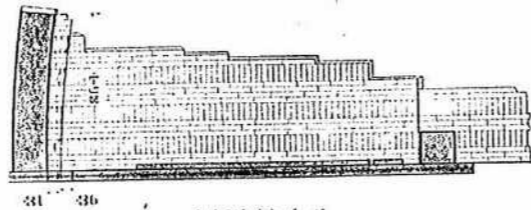


圖面斷イア

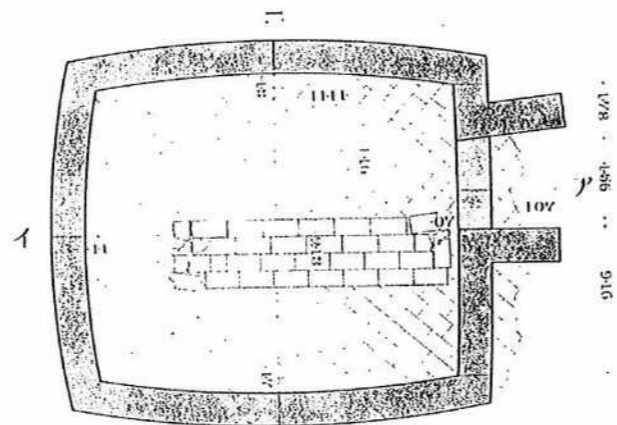


五六

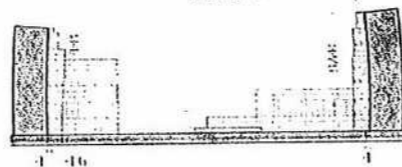
圖測實境四第 面江同大郡同大遼南安平 (一五)



断面イノ



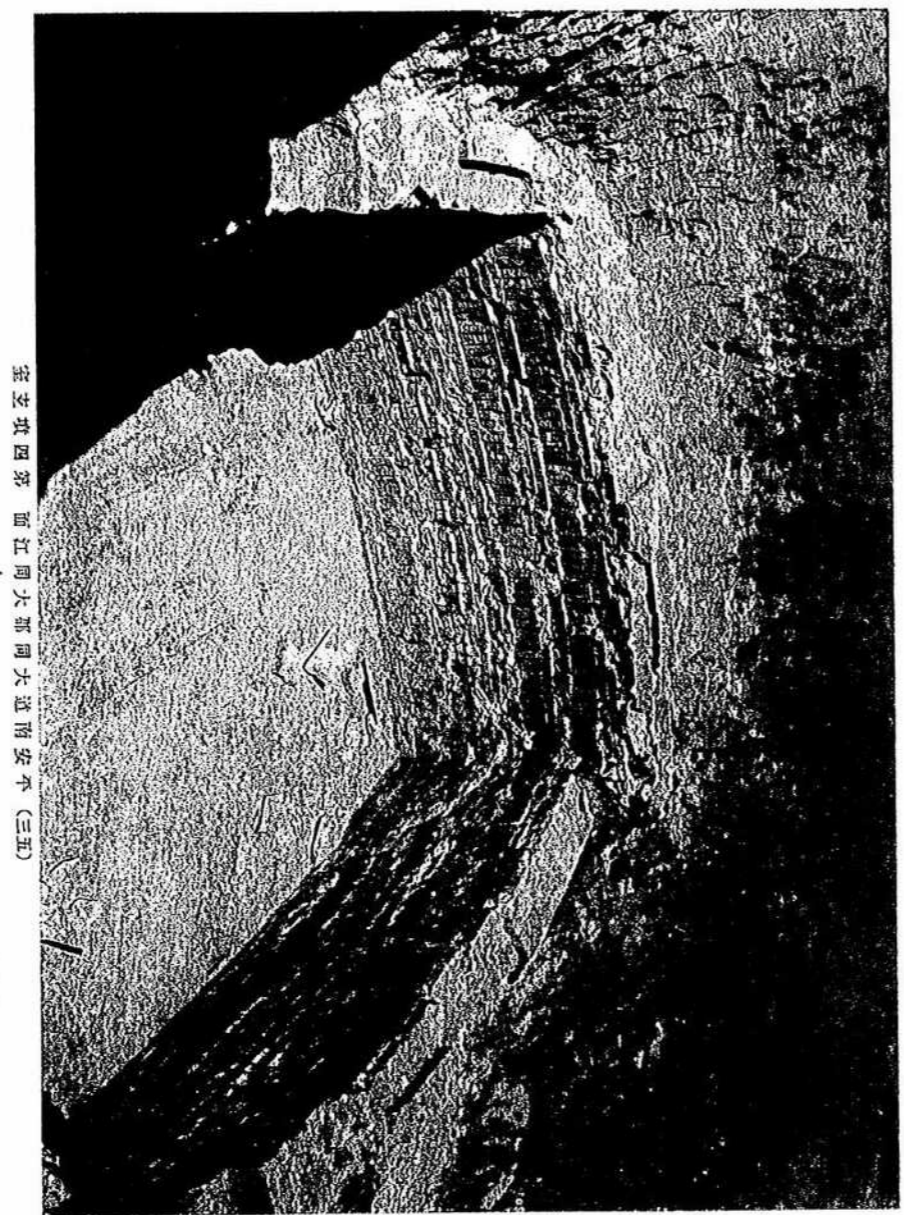
断面平



断面工ツ

0 1 8 100'

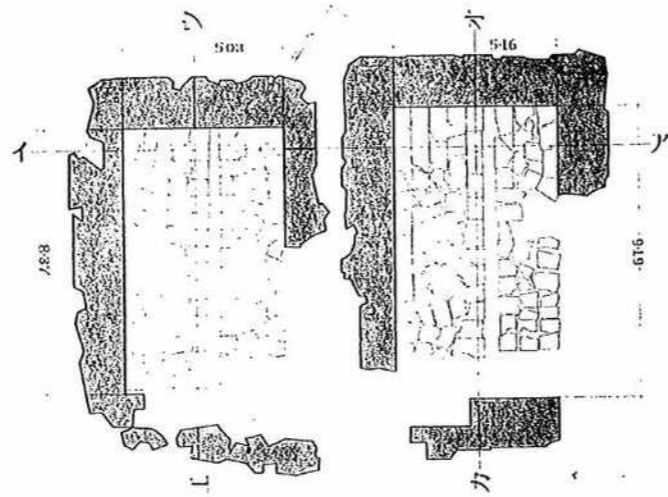
圖湖賓部内墳四第 面江同大部同大遺南安平 (二五)



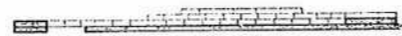
五八 窑芝坑四第 面江明大部開大道南安平 (三五)



断面イ



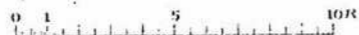
断面平



断面エ



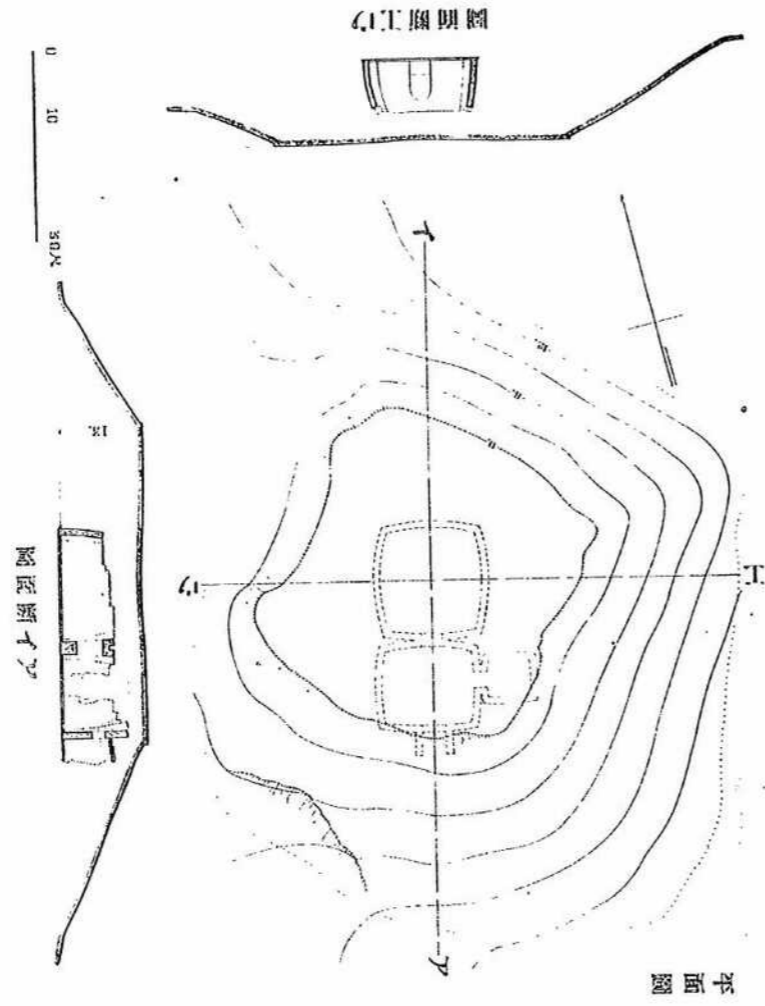
断面カ



圖湖宮部内填五第 面江同大邸同大遺南安平 (四E)



部内坎五第 面江同大部同大道南安平 (五五)

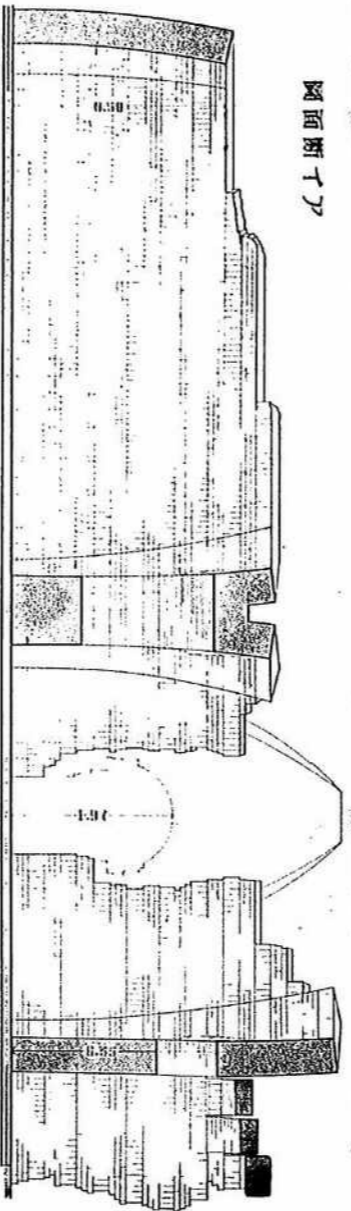


圖測實填一第 面江同大都同大道南安平 (六五)

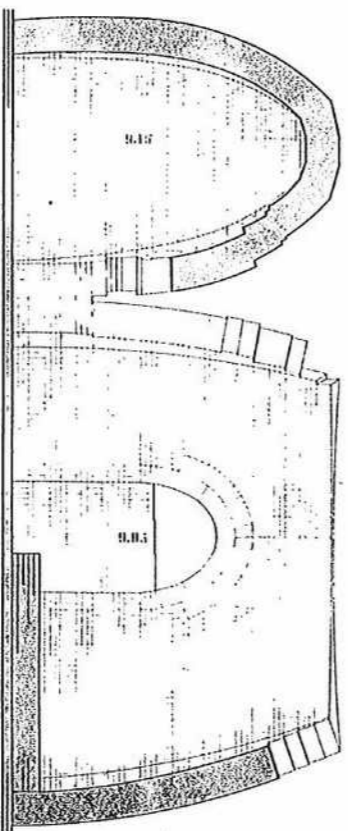


第一第 面江同大部同大道南安平 (七五)

断面下ナ



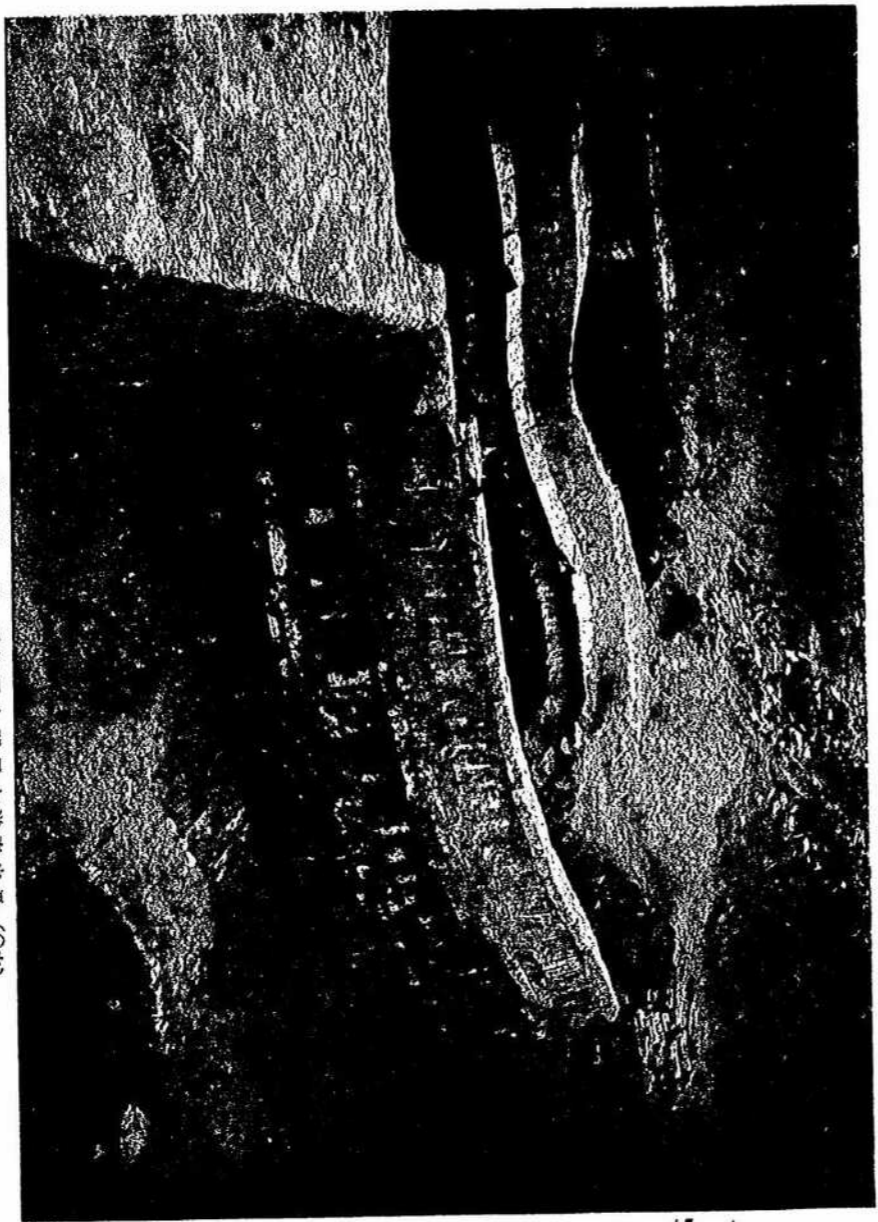
木ノ断面圖



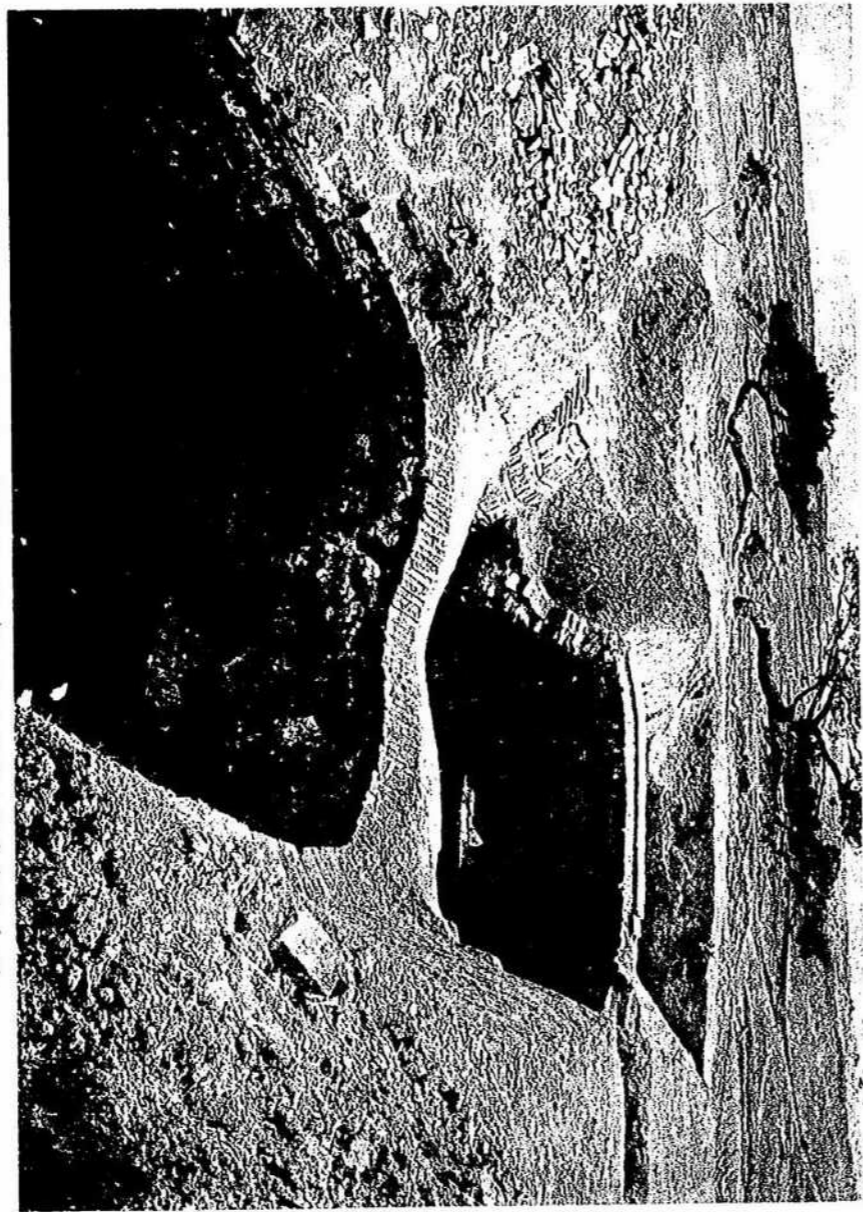
0 1 5 10m

圖測實部内拱一第 面江岡大郡岡大造南安平 (九三)

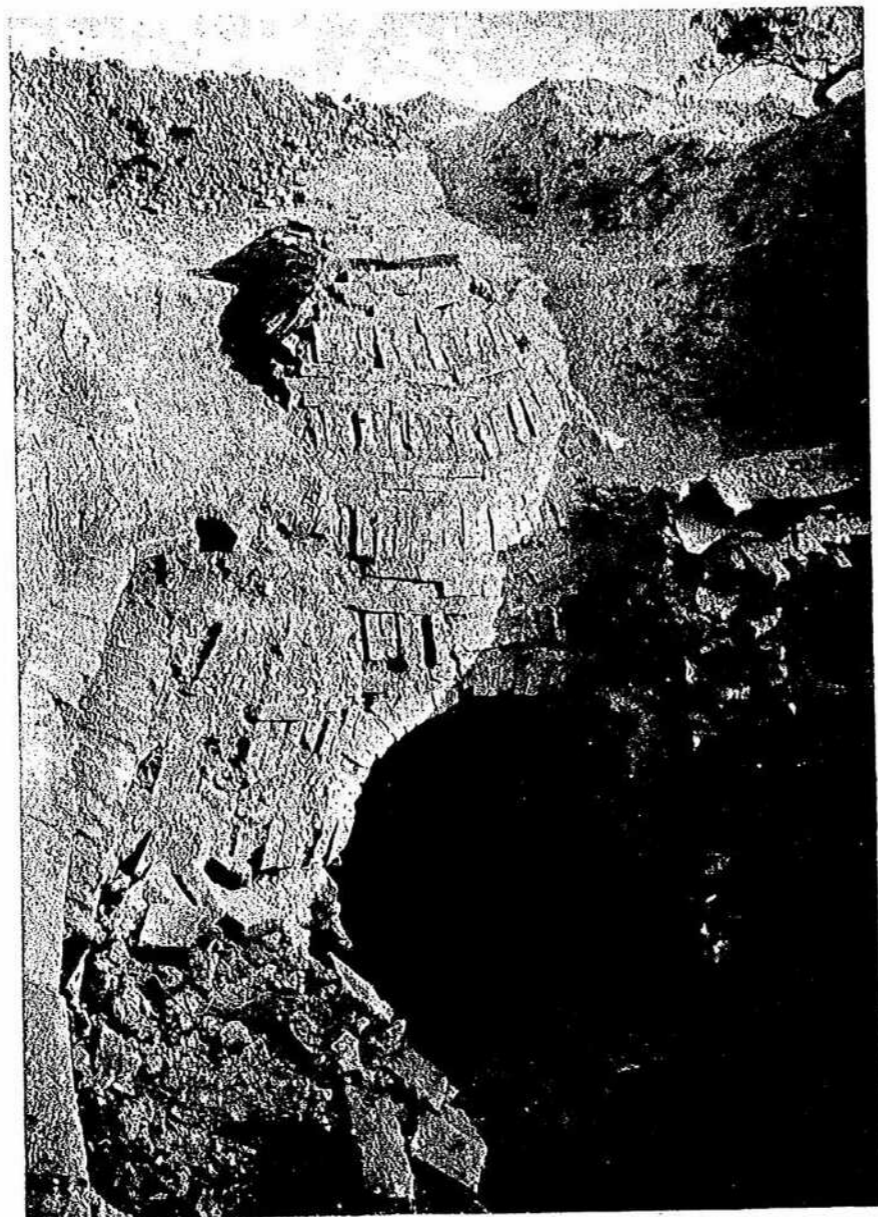
Architectural drawing of a building structure, showing a cross-section of a wall and a roof. The drawing is detailed with hatching and lines to indicate different materials and construction techniques.



(ムヅリコ方面) 都上篠塚一帯 面江同大郡同大造南安平 (〇六)

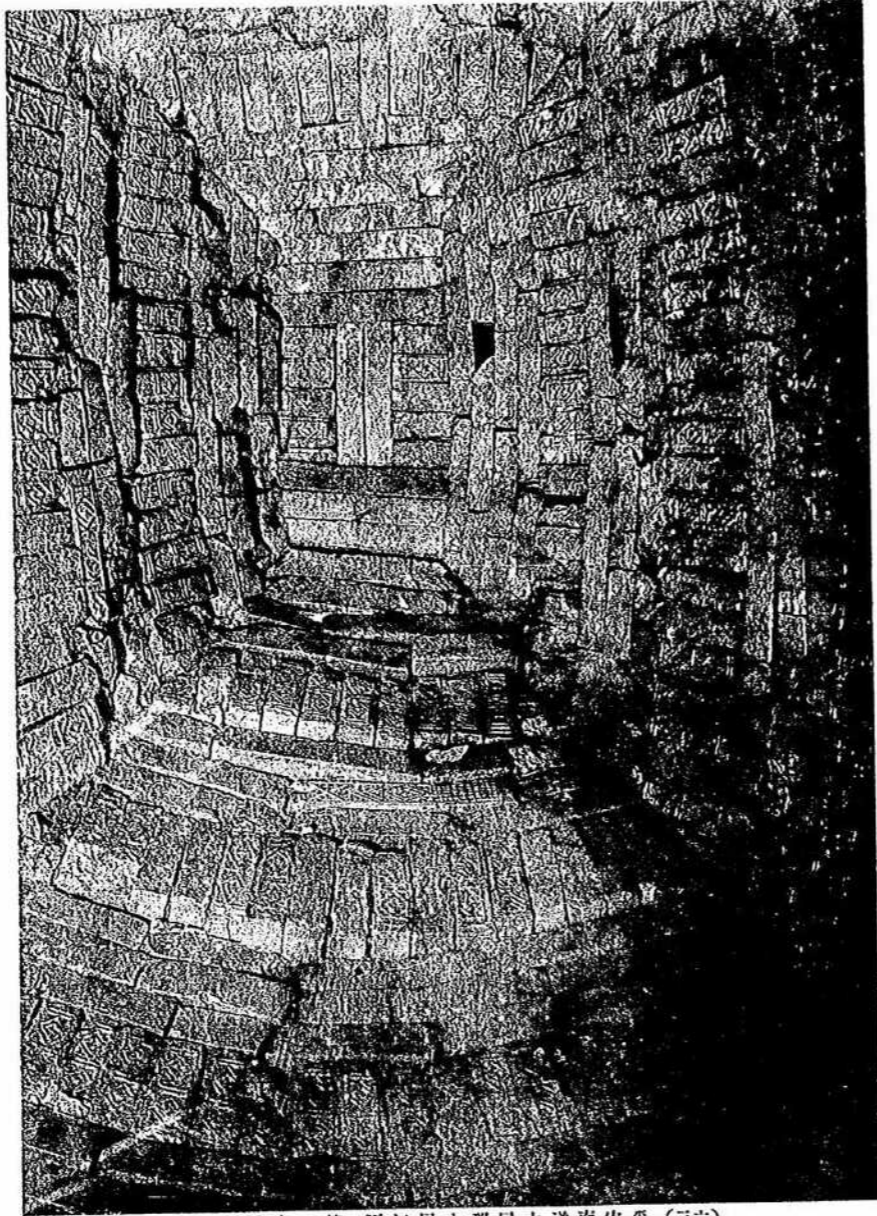


(一六) 平安南大郡同大郡江面一墩塔上第(後)方ヨリ

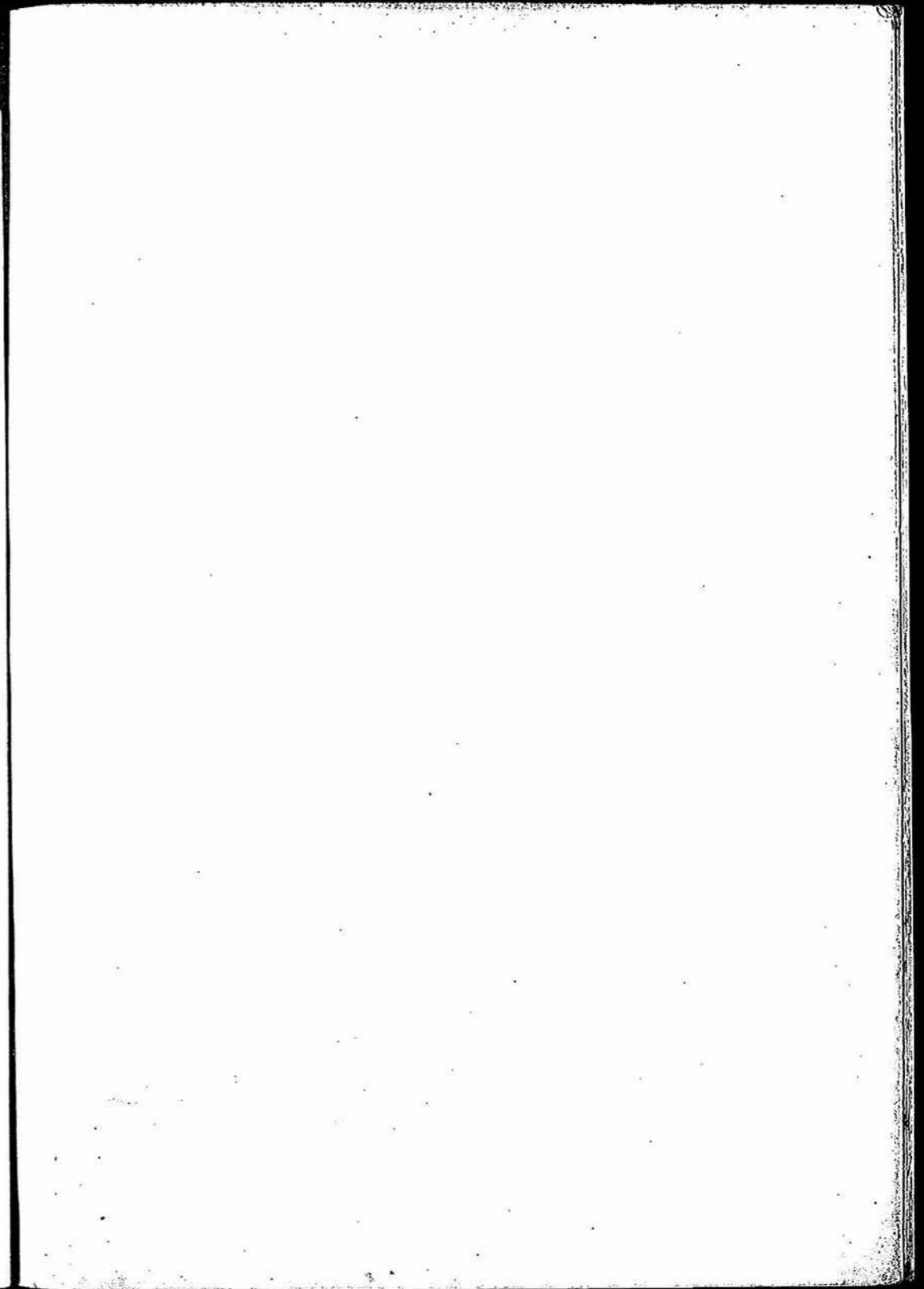
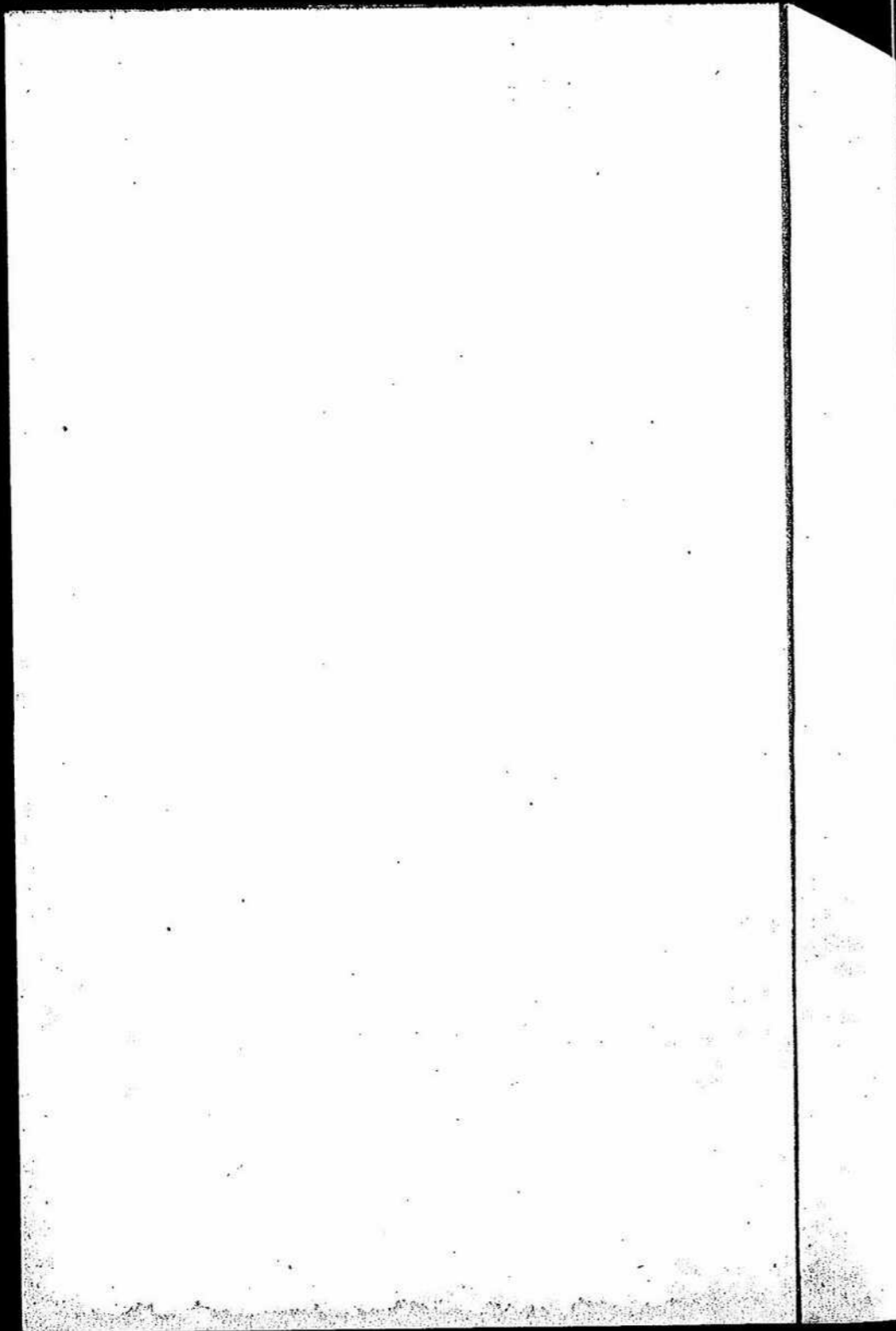


六七

日入室側墳一第 而江同大郡同大道南安平 (二六)

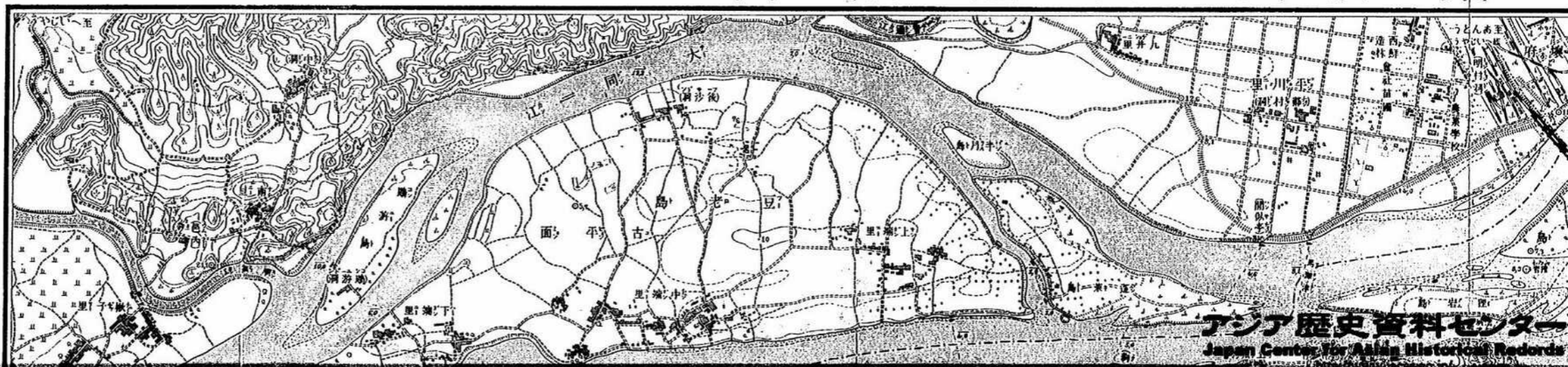


非天室側填一第 面江同火郡同大道南安平 (三六)

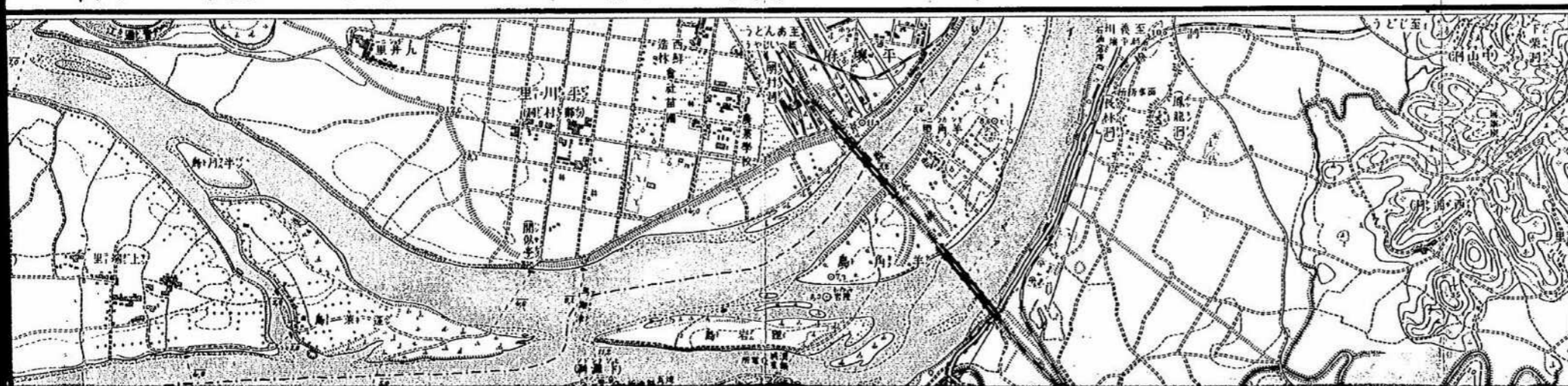




樂浪時代遺蹟圖

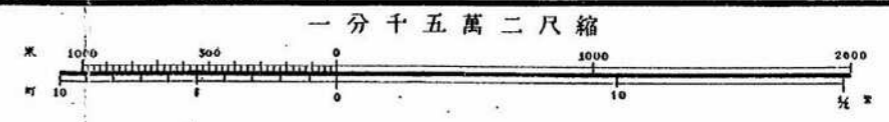


蹟 遺 代 時 浪 樂



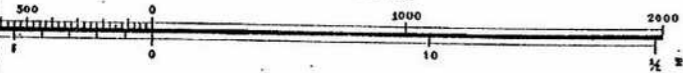


地形ハ大正四、五年本府測圖大正六年陸地
測量部發行ノ二萬五千分一地形圖ニ據ル





一分千五萬二尺縮



高程ハ米突ヲ以テ示ス

大正八年三月二十五日印刷
大正八年三月二十八日發行

朝鮮總督府

朝鮮總督官房總務局印刷所印刷